

# 新人教育プログラム及び理学療法士講習会 に関するアンケート調査報告書

(社)日本理学療法士協会 研修システム等検討委員会

平成 22 年 2 月

## 序

近年、理学療法士養成校の増加に伴い、理学療法士数は急激に増加しています。一方、医療技術は日進月歩で進化し、EBM やリスクマネジメント能力の必要性が叫ばれ、理学療法士に対して高度な知識と技術が要求されるようになってきました。増加する理学療法士の質の向上を図り、時代のニーズに応えるための研修システムを構築することは、日本理学療法士協会の責務であり、当委員会の重要な目的でもあります。

当委員会では、今後の研修システムを検討するための基礎資料を得ることを目的として、以下の3つアンケート調査を実施しました。

### 1. 受講者に対する新人教育プログラム（新プロ）アンケート調査

研修システムの土台ともいえる新プロについて、その問題点や課題等を明らかにする目的で、受講する立場の会員に対して実施しました。

### 2. 主催者（都道府県理学療法士会）に対する新プロアンケート調査

新プロを主催する立場の都道府県理学療法士会に対して、企画や運営上での問題点や課題等を明らかにする目的で実施しました。

### 3. 理学療法士講習会に関するアンケート調査（養成校）

今後増加する理学療法士に対応するために、理学療法士講習会の養成校開催の可能性を探る目的で、各養成校に対して実施しました。

この度、上記のアンケート調査を集計し、結果を取りまとめましたので会員の皆様へご報告致します。最後に、アンケート調査を実施するにあたり、ご協力を頂いた会員、都道府県理学療法士会、各養成校、各ブロック学会の会長並びに関係役員の方々に深く感謝申し上げます。

平成 22 年 2 月

研修システム等検討委員会

委員長 梶村 政司

## 目次

### I. 受講者に対する新人教育プログラム（新プロ）アンケート調査

1. 調査目的	1
2. 調査期間	1
3. 調査方法	1
4. 調査対象	1
5. アンケート調査結果の概要	
1) 調査対象の概要	2
2) 修了率比較	4
3) 新プロ修了期間（年）別分布	5
4) 未履修科目数比較	6
5) 新プロ開催内容について	7
6) 履修困難な理由について	8
7) 今後の新プロについて	11
8) eラーニングについて	15
9) 専門理学療法士制度について	15
10) その他の意見・要望	16

### II. 主催者（都道府県理学療法士会）に対する新プロアンケート調査

1. 調査目的	22
2. 調査期間	22
3. 調査方法	22
4. 調査対象	22
5. アンケート調査結果の概要	
1) 新プロ受講の手数料について	22
2) 新プロ収入の使途	23
3) 新プロ修了の平均期間について	23
4) 1科目の年間開催数	23
5) 必須プログラムの広報について	24
6) 開催が困難な科目について	24
7) 現在の新プロ科目以外で望みたいテーマについて	25
8) 読み替えの範囲について（トピックスと症例検討以外の読み替え）	26
9) 会員の単位取得状況の把握について	26
10) eラーニングの利用について	27
11) 専門理学療法士制度の理解度について	27
12) 専門理学療法士の資格取得への働きかけ	28
13) 新プロに対する協会の支援について	28
14) 新プロや専門理学療法士制度（ポイント制）の単位管理について	29

### Ⅲ. 理学療法士講習会に関するアンケート調査（養成校）

1. 調査目的	37
2. 調査期間	37
3. 調査方法	37
4. 調査対象	37
5. アンケート調査結果の概要	
1) 調査対象の概要	37
2) 日本理学療法士協会への入会説明と資料配付について	38
3) 卒業生を対象とした定期的な研修会の実施について	38
4) 研修会の開催頻度について	39
5) 研修内容（実技・座学）について	39
6) 研修会の具体的内容について	39
7) 研修会の参加者について	42
8) 研修会参加者の人数について	42
9) 理学療法士講習会基本編（理論）の養成校開催の可能性について	43
10) 理学療法士講習会基本編（技術）の養成校開催の可能性について	43
11) 利用可能な会場の収容人数と利用料金について	44
12) 講習会開催の開催時期について	44
13) 養成校での理学療法士講習会が開催困難な理由について	45
14) その他、理学療法士講習会の養成校開催に対する意見について	45

## I. 受講者に対する新人教育プログラム（新プロ）アンケート調査

### 1. 調査目的

本調査は日本理学療法士協会の新プロの実態を把握するとともに、新プロ修了に関わる問題点を明らかにして、今後の研修システムを考えるための基礎資料を得ることを目的とする。

### 2. 調査期間

平成 21 年 8 月 29 日～12 月 13 日

### 3. 調査方法

全国 8 ブロック学会参加者を対象とした自記式アンケート法で調査を実施した。調査項目は性別・所属施設等の基本属性と修了状況・未履修科目等の新プロ実態調査項目、及び専門理学療法士制度に関する調査項目である。（アンケート用紙は P20～P21）

### 4. 調査対象

全国 8 ブロック学会参加者の計 759 名を対象とした。学会別の対象者数とアンケート回収率を以下に記す。

	( ) 内は回収率
○ 第 23 回 中国ブロック理学療法士学会 8 月 29 日（土）～30 日（日）	105 名（53%）
○ 第 28 回 関東甲信越ブロック理学療法士学会 9 月 12 日（土）～13 日（日）	123 名（62%）
○ 第 25 回 東海北陸理学療法学会 10 月 31 日（土）～11 月 1 日（日）	52 名（26%）
○ 第 31 回 九州理学療法士・作業療法士合同学会 11 月 14 日（土）～15 日（日）	93 名（47%）
○ 第 38 回 四国理学療法士学会 11 月 14 日（土）～15 日（日）	91 名（61%）
○ 第 60 回 北海道理学療法士学会 11 月 21 日（土）～22 日（日）	85 名（43%）
○ 第 49 回 近畿理学療法学会 11 月 22 日（日）	106 名（48%）
○ 第 27 回 東北理学療法学会 12 月 12 日（土）～13 日（日）	104 名（42%）
<b>合計</b>	<b>759 名（47%）</b>

## 5. アンケート調査結果の概要

### 1) 調査対象の概要

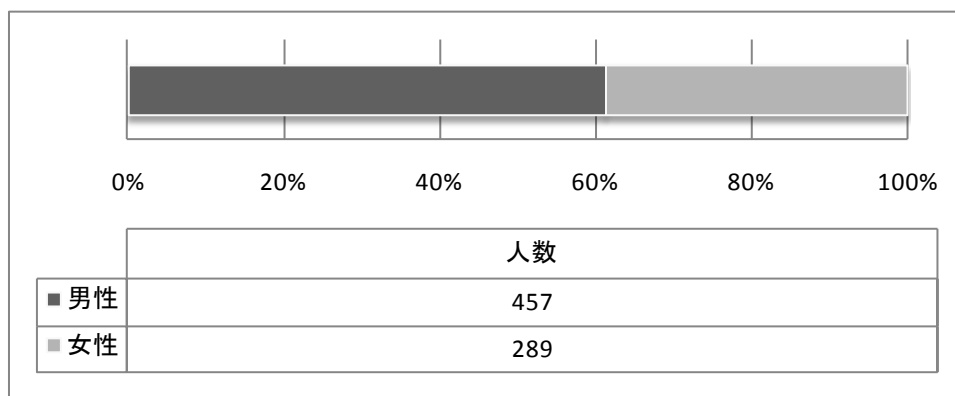
#### (1) 都道府県別分布

No	都道府県	人数
1	北海道*	85
2	青森県	15
3	秋田県	2
4	岩手県	9
5	宮城県*	40
6	山形県	12
7	福島県	17
8	茨城県	7
9	栃木県	9
10	群馬県*	34
11	埼玉県	13
12	千葉県	11
13	東京都	9
14	神奈川県	18
15	新潟県	12
16	富山県	0
17	石川県	0
18	福井県	5
19	山梨県	3
20	長野県	10
21	静岡県	6
22	岐阜県*	20
23	愛知県	18
24	三重県	2
25	京都府	0

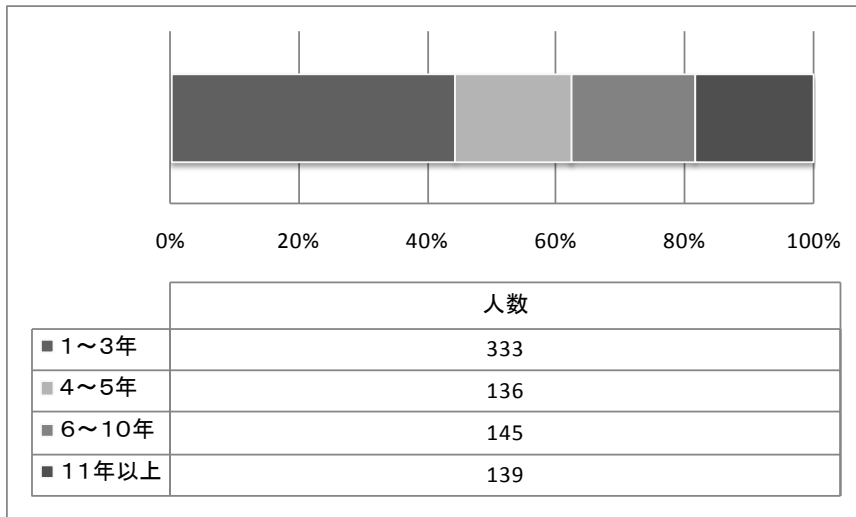
No	都道府県	人数
26	滋賀県	0
27	奈良県	2
28	和歌山県	2
29	大阪府	11
30	兵庫県*	90
31	岡山県	7
32	広島県	31
33	鳥取県	5
34	島根県	3
35	山口県*	59
36	徳島県*	34
37	高知県	18
38	香川県	24
39	愛媛県	16
40	福岡県	33
41	長崎県	6
42	熊本県	14
43	大分県	10
44	佐賀県	7
45	宮崎県*	9
46	鹿児島県	10
47	沖縄県	2
	空白その他	9

\* ブロック学会開催県

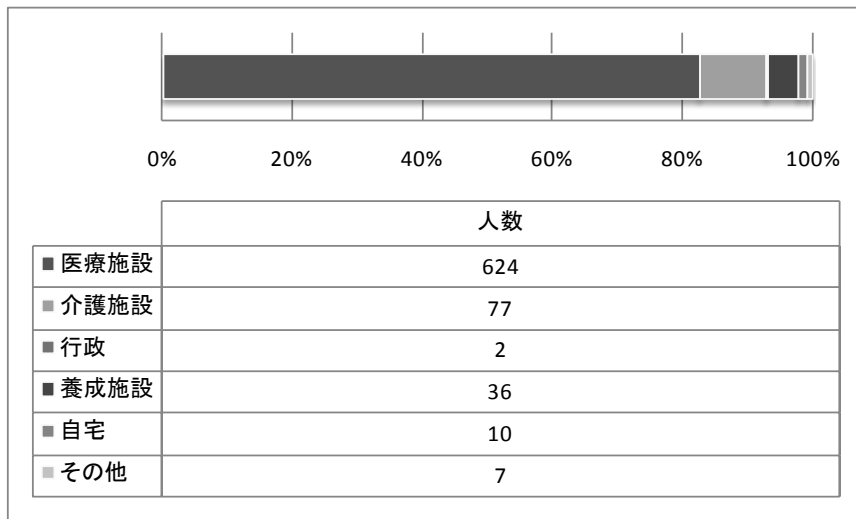
#### (2) 男女別分布



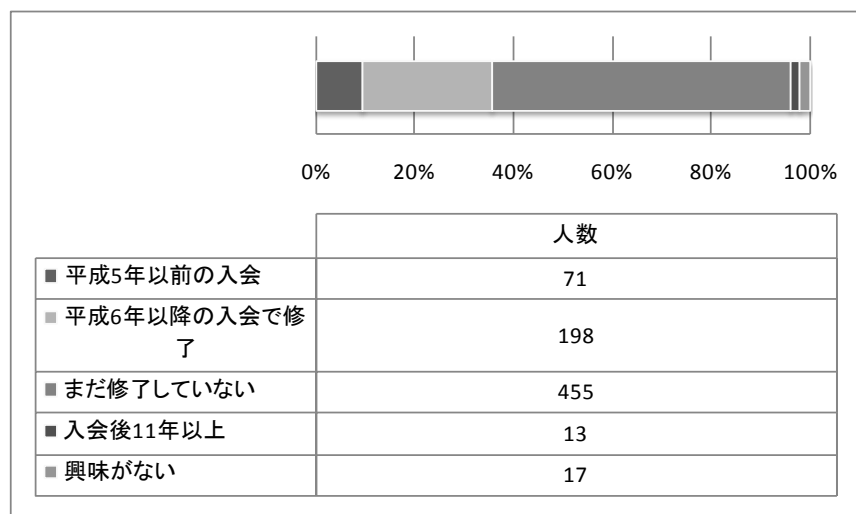
(3) 入会年別分布



(4) 所属施設別分布



(5) 履修状況別分布



## 2) 修了率比較

### (1) ブロック別比較

ブロック	人数	入会4年以降の 会員数	新プロ修了会員数 (入会3年以内の 会員は除く)	新プロ修了率 (入会3年以内の 会員は除く)
北海道	85	39	21	<b>54%</b>
東北	104	58	34	<b>59%</b>
関東甲信越	123	67	34	<b>51%</b>
東海北陸	52	33	26	<b>79%</b>
近畿	106	63	36	<b>57%</b>
中国	105	62	36	<b>58%</b>
四国	91	60	40	<b>67%</b>
九州	93	44	26	<b>59%</b>
<b>合計</b>	<b>759</b>	<b>426</b>	<b>253</b>	<b>59%</b>

※新プロ修了率=新プロ修了会員数÷入会4年以降の会員数×100

### (2) 男女別比較

性別	人数	入会4年以降の 会員数	新プロ修了会員数 (入会3年以内の 会員は除く)	新プロ修了率 (入会3年以内の 会員は除く)
男	457	275	170	<b>62%</b>
女	289	144	80	<b>56%</b>

### (3) 入会年別比較

入会年	人数	入会4年以降の 会員数	新プロ修了会員数 (入会3年以内の 会員は除く)	新プロ修了率 (入会3年以内の 会員は除く)
1～3年	333			
4～5年	136	136	42	<b>31%</b>
6～10年	145	145	84	<b>58%</b>
11年以上	139	139	122	<b>88%</b>

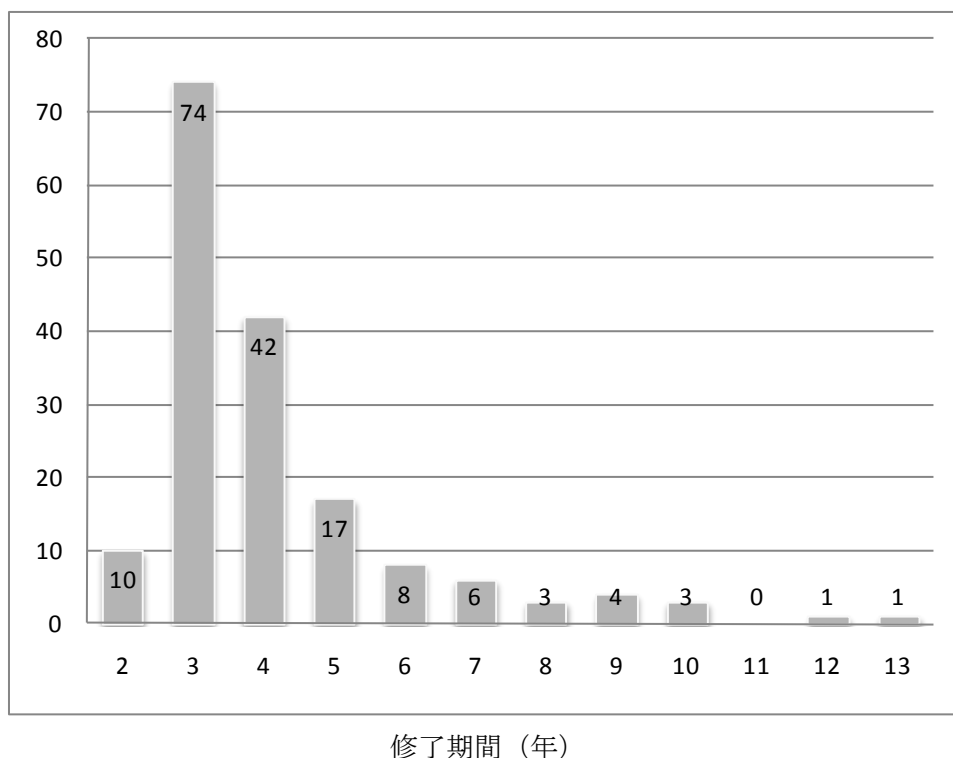
(4) 所属施設別比較

所属施設	人数	入会4年以降の 会員数	新プロ修了会員数 (入会3年以内の 会員は除く)	新プロ修了率 (入会3年以内の 会員は除く)
医療施設	624	326	197	60%
介護施設	77	43	18	42%
行政	2	2	2	100%
養成施設	36	36	26	72%
自宅	10	6	5	83%
その他	7	6	5	83%

(5) スタッフ人数別

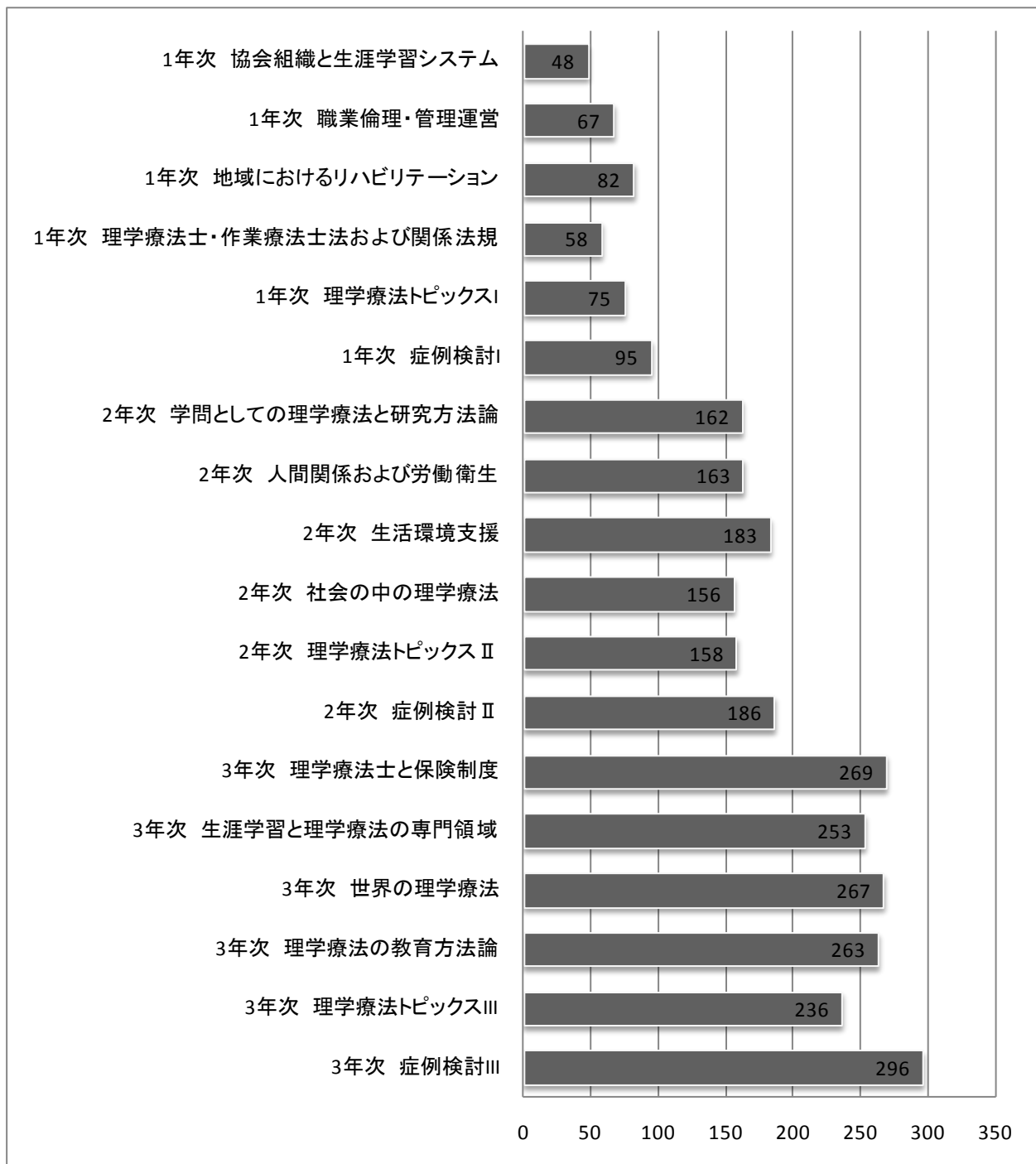
スタッフ人数	人数	入会4年以降の 会員数	新プロ修了会員数 (入会3年以内の 会員は除く)	新プロ修了率 (入会3年以内の 会員は除く)
1～5人	152	88	45	51%
6～10人	156	89	63	71%
11人以上	256	117	69	59%

3) 新プロ修了期間(年)別分布



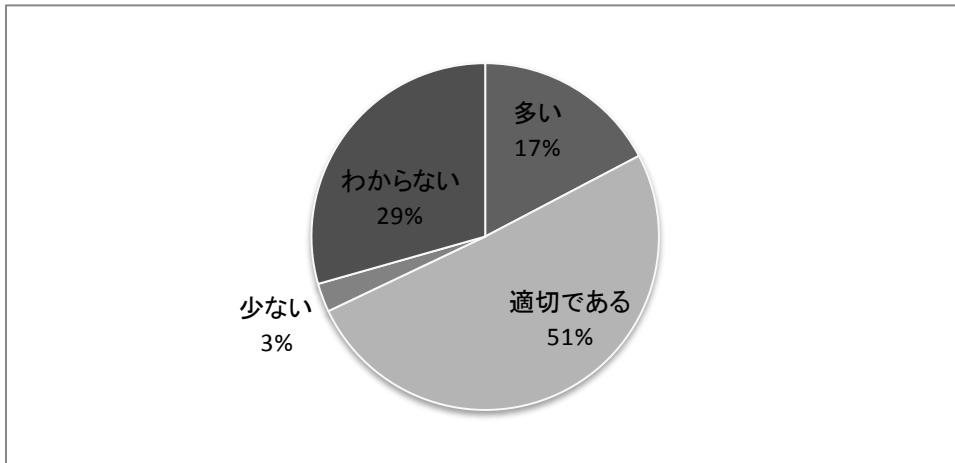
※平均修了期間(標準偏差): 4.1年(1.9)

4) 未履修科目数比較

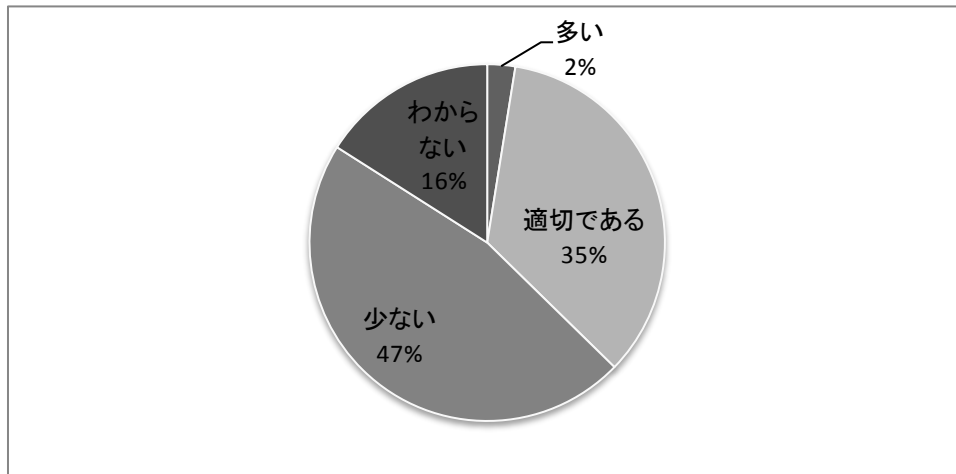


5) 新プロ開催内容について

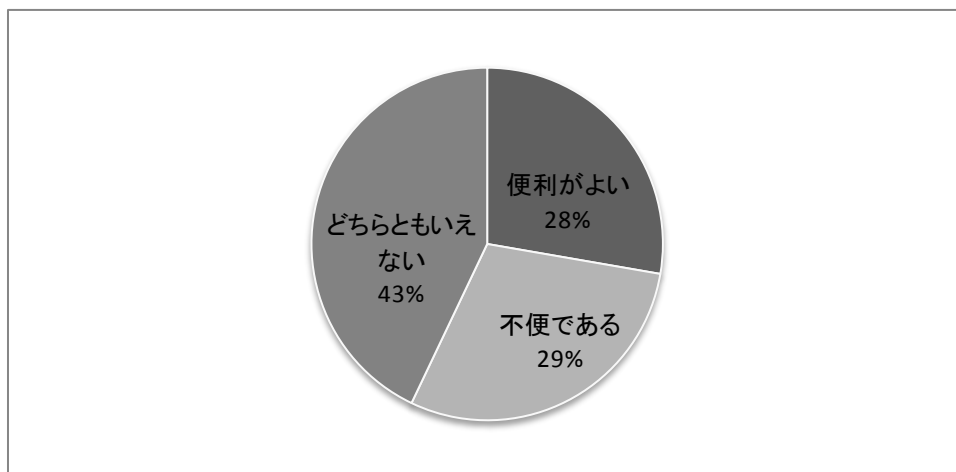
(1) 単位数について (n=636)



(2) 開催日数について (n=632)



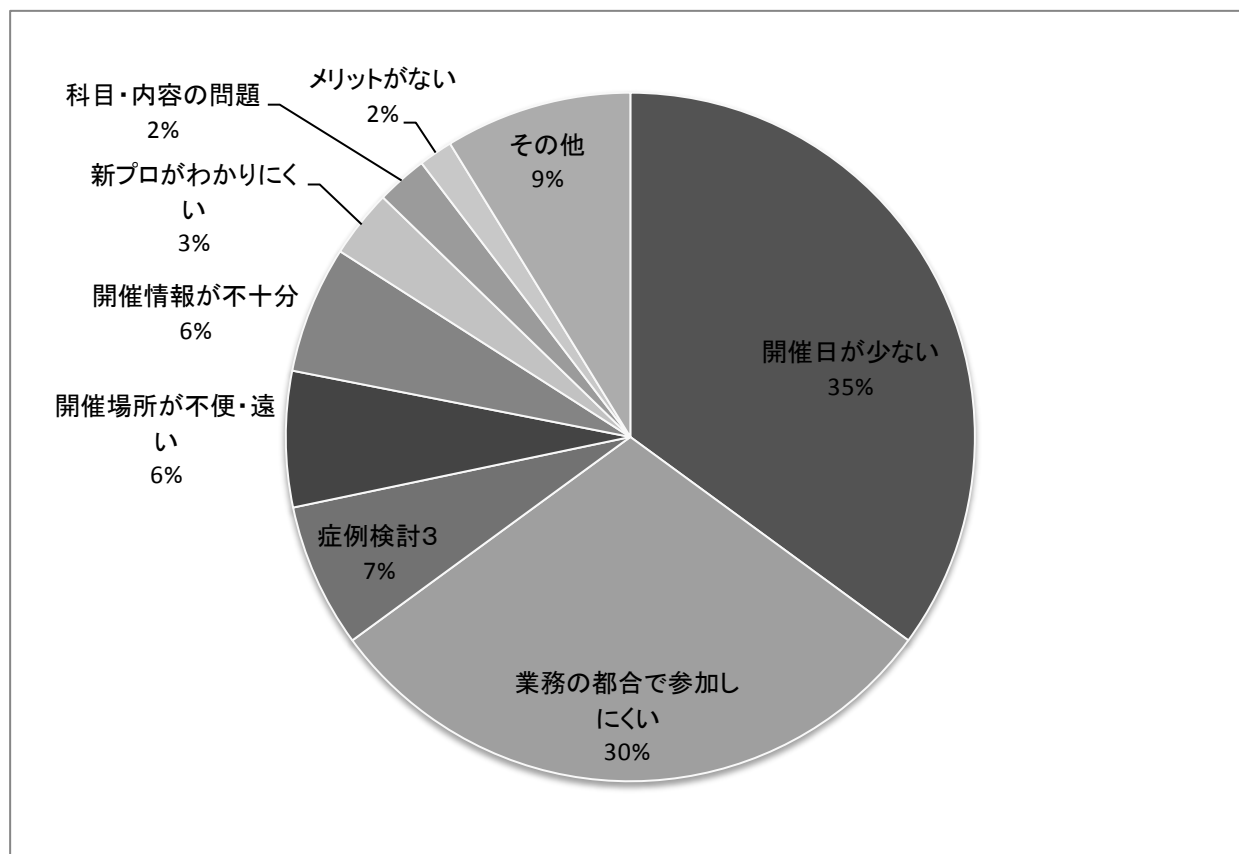
(3) 開催場所について (n=631)



## 6) 履修困難な理由について

### (1) 理由別の人数

履修困難な理由	人数
開催日が少ない	88
業務の都合で参加しにくい	75
症例検討3	17
開催場所が不便・遠い	16
開催情報が不十分	15
新プロがわかりにくい	8
科目・内容の問題	6
メリットがない	4
その他	22



### (2) 理由別の自由記載例

#### ①開催日が少ない

- ・研修会の開催日が少ない
- ・3年間で1回の開催だと、1回逃すと4年目以降まで取れないので厳しい
- ・1回都合がつかず、欠席すると次がない。開催日数が少なく、出席できないこともあった。
- ・土日のみの開催で参加しづらい。1科目の講義が年に1回しかないため、予定が合わなければ参加できず、数年が過ぎてしまうこともある。

- ・年に1度のため、その日にいけないと1年後になってしまう。

#### ②業務の都合で参加しにくい

- ・出張等で参加できない
- ・仕事の休みが合わない
- ・日程の調整がつかない
- ・365日体制で休みが取れない
- ・トピックスは平日開催なので参加しにくい
- ・休日に都道府県理学療法士会に参加しても出勤扱いにならず代休もないため、日々の業務に追われ、症例研究ができない。
- ・開催日に仕事がある。

#### ③メリットがない

- ・地方自治体で勤務しているため、履修しても意味がない。
- ・新プロを修了しても意味がない

#### ④症例検討3

- ・症例検討は苦手なのでなくしてほしい
- ・症例報告が嫌なので。発表することは大切だと思うが、年数を重ねるごとに発表から遠ざかってしまう。
- ・研究発表に興味のない人にとっては症例検討3の履修は望んでいない

#### ⑤開催情報が不十分

- ・開催日の広報が遅い
- ・情報が少ない

#### ⑥新プロがわかりにくい

- ・システムがよくわからない
- ・履修は終わったが届けしていない、わからない
- ・履修していても手続きが面倒で未履修になっている。

#### ⑦開催場所が不便・遠い

- ・開催場所が遠いので、年に一度しか単位が取れないものは履修が難しい
- ・会場が遠い。交通費がかかる
- ・離島に住んでいたため参加できなかった
- ・開催場所が限られている。
- ・研修会は札幌で行われることが多いので地方で働いているものは履修しにくい。移動にかかる身体的・金銭的負担が大きい。

#### ⑧科目・内容の問題

- ・科目が魅力的でない
- ・無駄なものが多い
- ・時間が長い。内容が良くわからない。
- ・内容が興味のないものばかり
- ・世界の理学療法項目が少ない。
- ・生活環境論や教育方法論は研修会が少ないので単位がとりにくい

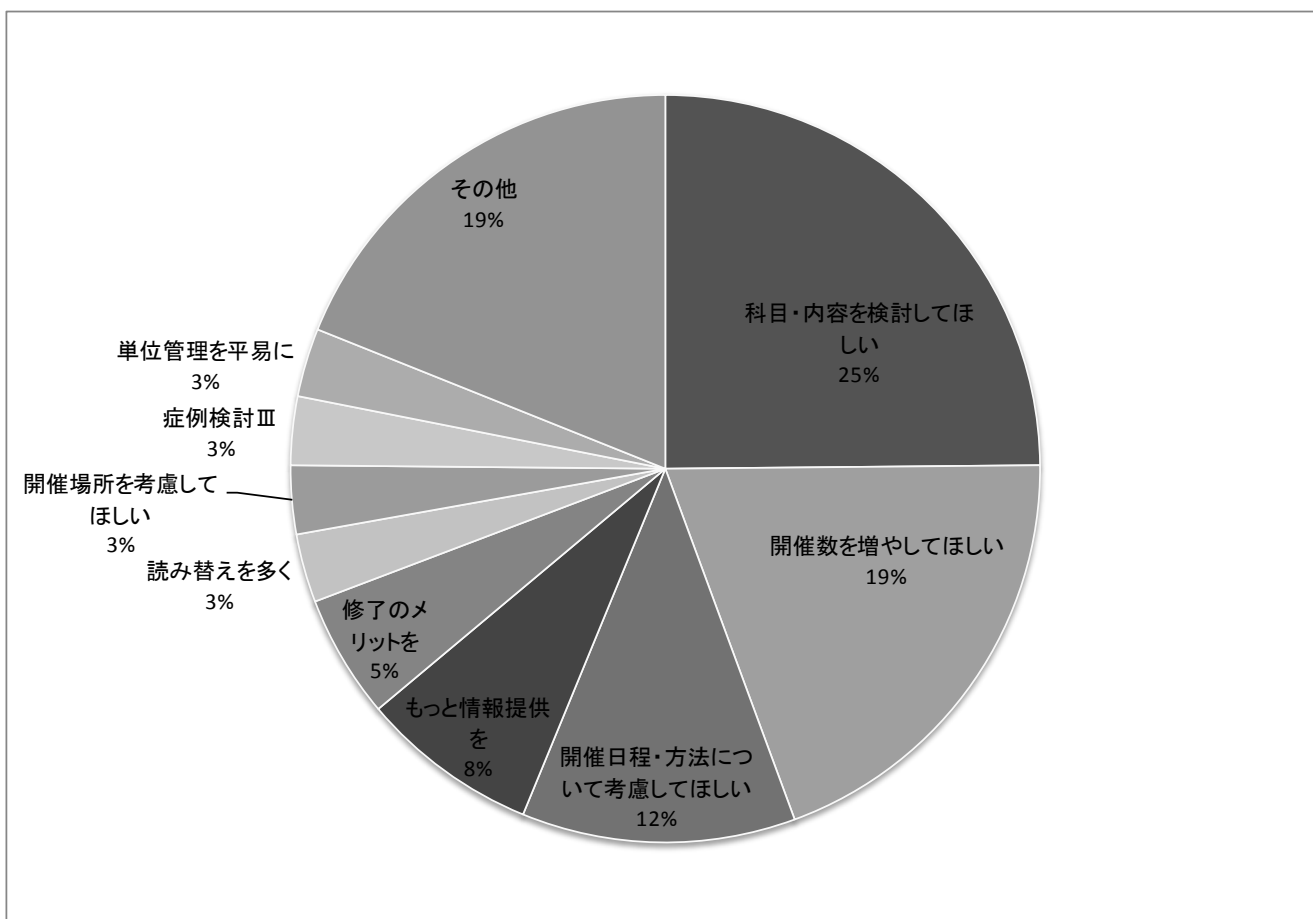
#### ⑨その他

- ・妊娠、出産、育児への配慮
- ・結婚などの生活環境の変化により
- ・単位数が多い
- ・地域リハの開催日が少ない
- ・学会発表→職場に指導してくれる先輩がいないと、新人では困難
- ・以前は別の都道府県理学療法士会にいたが、内容が若干異なる。1年目の症例発表が参加のみだったり、発表必須だったり難易度が違う。
- ・お金がかかる。茨城の方が安い気がする。茨城なら取りたい。病院の方針が大きい。去年までは職場が義務化していたが、今年度の所属では、強制されないのでは、とらなくても良いかと思う。
- ・研修会に参加しても1単位しか対象の講義がなく、遠方まで行って参加する気になれない。
- ・他の研修を優先するため
- ・モチベーションの低さ。
- ・1年間で履修可能になっており、内容が毎年変更されるため複数年でとりにくかった。
- ・スカパーが県で認めてもらえなかった。
- ・学会や他の研修会と重なることが多い。
- ・研修に参加してもトピックスしか貯まらなく修了できていない。
- ・福岡から北海道に異動したが地方により考え方が違い統一して欲しい。
- ・申請を年度途中に行ったので、現在数ヶ月の終了手続き待ちとなり困っている。
- ・2や4はテーマが少なく履修しにくい。Ⅲ-6の条件が厳しくなり履修する機会が減った。
- ・症例検討会と参加したい研修会が重なることがあり参加しにくい

## 7) 今後の新プロについて

### (1) 内容別の人数

内容	人数
科目・内容を検討してほしい	42
開催数を増やしてほしい	33
開催日程・方法について考慮してほしい	20
もっと情報提供を	13
修了のメリットを	9
読み替えを多く	5
開催場所を考慮してほしい	5
症例検討Ⅲ	5
単位管理を平易に	5
その他	32



## (2) 内容別の自由記載例

### ①科目・内容を検討してほしい

- ・柔軟性のあるプログラムにしていただきたい
- ・もっと学習しやすく役に立つテーマであればよい。
- ・医療従事者のコミュニケーション能力の教育
- ・発表しないでも修了できる様にして欲しい
- ・実技も取り入れて欲しい。テクニカルな部分も充実すると良い。
- ・新プロの内容は一本尻に眠い。講師側にも工夫して欲しい。
- ・臨床に役立つ内容にして欲しい。
- ・義務的に新プロをとっているだけで、臨床に応用できるような内容が少ない。
- ・座学で教科書を読むような研修は頭に入らない。
- ・養成校が増加したことで、新人間のレベルにかなりの格差がある。新プロの内容を見直す必要がある。より臨床に即した内容の講習を加えてみたらどうか。また、症例検討の場をいかに増やすかが問題である。
- ・講座内容の選択性をつくってほしい。
- ・形式だけでなく、きちんとした内容であることが重要。
- ・実施回数を増やし、なおかつ内容を選択性にしてほしい。(聞きたい内容のみを聞く)
- ・E-ラーニングの取り入れ
- ・内容が現場に近いものになってほしい。
- ・内容がもう少し興味を持つ様なものと満足感が出る。
- ・基本的な治療の流れなど実技も含めたものも行ってほしい。
- ・大学ですでに学んできたことを講義で再度行うのは社会人にとって効率が悪い。
- ・ステップアップ方式の廃止。1～3年次の単位どれからとっても良い方式にして欲しい。
- ・内容を豊富にして欲しい
- ・政治に関するプログラムを
- ・もっと基礎的でも良いと思う
- ・新プロの科目は業務の役に立たない
- ・教養、倫理系の研修

### ②開催日数を増やしてほしい

- ・入会して数年立つと、業務や家庭の事情でなかなか参加できないため、1～2年ですべて履修できるようにして欲しい。
- ・ビデオなどを使い複数回実施して欲しい。
- ・各支部で開催またはネット研修があると良い。
- ・開催日を増やし参加しやすくして欲しい。
- ・参加人数が増え、会場が狭くなることも合わせて、開催日が複数選べると良い。
- ・1年に1度しかその単位を取得できないのはおかしい。2・3度機会を作って欲しい。
- ・難しいですが、地域ごとに何回かに分けて行う。休日に集中して行う。

### ③開催日程・方法について考慮してほしい

- ・平日は参加が難しい。
- ・開催日数が増えてもいいので、1回の実施時間を短くしてほしい。(午後のみなど)
- ・年間を通しての継続的な講習を実施してほしい。現在は単発が多く、深く理解していくまでに至らない。
- ・業務の都合で出席できない人への対応をしてほしい。
- ・他県同様に、1日で終わらせて欲しい
- ・土・日の出勤の考慮
- ・集中して1回で取得できるように
- ・強制力を持たせ出張扱いで行かせてほしい
- ・秋に集中している、年間ばらつきがないよう
- ・午前中に終わるプログラムを頻回に
- ・平日の夜に少しづつ単位を取得できるシステムが良いと思う
- ・祝日にするのを変えてもらいたい

### ④もっと情報提供を

- ・開催日を早めに通知してほしい。
- ・告知を半年前には行って欲しい。少なくとも3ヶ月前に。
- ・HPで日程を掲載してほしい
- ・開催情報を早く知らせて欲しい
- ・広報を工夫してほしい
- ・年間スケジュールをあらかじめ出して欲しい

### ⑤修了のメリットを

- ・学習意欲のない人は退会させ、会員登録していないリハ科は診療報酬を引き下げるべき。
- ・新プロ、専門、認定を受けたものの差別化
- ・内容が良いとは思わない。方向性、何を勉強して欲しいかなど明確でない。何のために単位をとるのかはっきりしてほしい。
- ・新プロ後のシステムが分かりにくい。メリットを感じない。
- ・認定・専門PTをとるメリットが感じ取れない。取っても意味がない。
- ・新プロを終了したらなにか資格のようなものが欲しい。
- ・メリットのあるシステムを
- ・特典をつけては

### ⑥読み替えを多く

- ・読み替えがもっと出来るように
- ・読み替えの多様性
- ・読み替えなど履修しやすくモチベーションを保てる工夫をして欲しい
- ・読替を増やしてほしい

⑦開催場所を考慮してほしい

- ・県内様々な場所で開催して欲しい。
- ・開催地が遠い
- ・交通の利便性を考えて欲しい

⑧症例検討Ⅲ

- ・発表がないと良い。
- ・症例検討Ⅲをとりやすくして欲しい。
- ・症例発表必須を廃止
- ・就職した病院、施設によっては相談できる環境が無く、症例発表を行うことが大変困難。

⑨単位管理を平易に

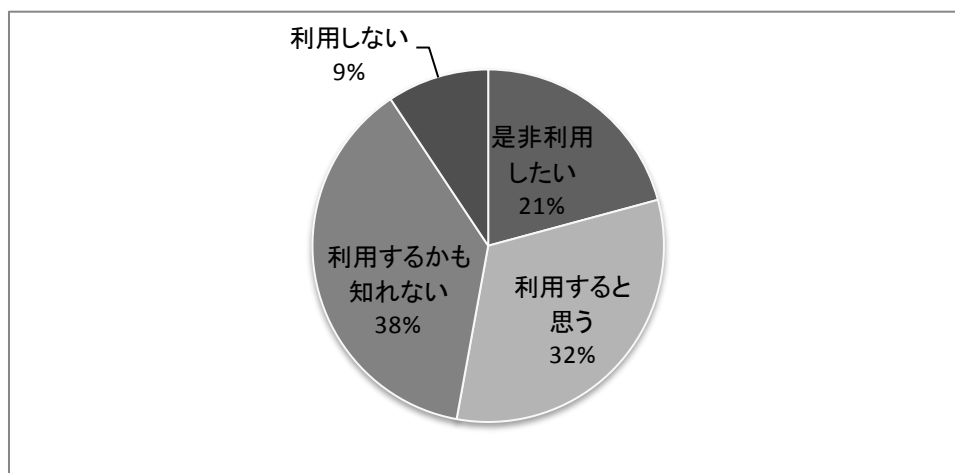
- ・履修項目について協会で管理して欲しい。
- ・年度の途中からでも申請できるようにして欲しい。
- ・申請したときに終了証明を出してほしい。認定会議が数ヵ月後にあり、申請年度が1年遅くなってしまった。
- ・履修時の手続きの簡素化
- ・手帳に何年目にどの科目を履修するのかりストとして記載してあるほうが、どれが残っているのか解りやすいと思われた。

⑩その他

- ・県外のものも認定して欲しい。
- ・ビデオを流すだけでなく、しっかりと受講生に伝える必要があるのでは？
- ・名称変更が必要では？3年以上の者は受けにくい。
- ・インターネット環境。
- ・全ての都道府県理学療法士会で統一してほしい。地域格差の是正
- ・都道府県理学療法士会ごとの制度ではなく、全国統一にし、単位取得の機会を増やして欲しい。
- ・もっととりやすくして下さい。
- ・eラーニングは非常に良いと思う。
- ・担当となっている係りの方も履修科目に関して理解しているか疑問に思うことがある。
- ・重複する学会の単位を他の単位に変換して欲しい。
- ・プレゼンの資料がほしい。
- ・未履修科目を個人に伝達して欲しい。
- ・他分野に広がっていくPT領域をどのように基礎作りとなる新プロ育成していくか重要と考えます。新人にこそその重要性を伝えていったほうが良い。
- ・現状でよい。
- ・小ブロックに分けて、少人数で勉強になる勉強会をやってほしい。
- ・都道府県理学療法士会活動を反映させて欲しい
- ・発表で相談できる上司がいない

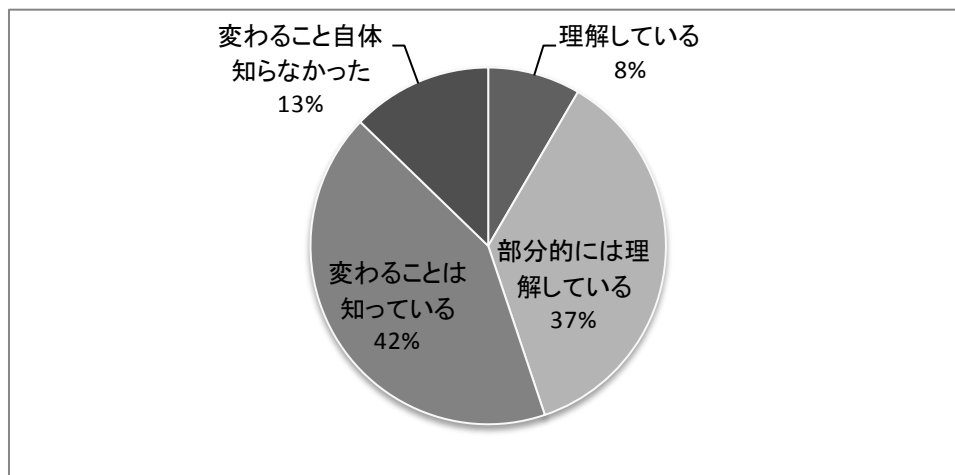
- ・勉強会の参加が受理されない
- ・もう少しわかりやすく
- ・生涯学習として本当に必要な講義であったのかどうか疑問があります。経験年数の少ない時期に、どういった人間を育成したいのかというビジョンをもっと明確にすべきであると考えます。メッセージ性がないように感じました。
- ・もっと履修を徹底すべき
- ・1~2年で修了できるプログラムにして欲しい
- ・若いPTほど面倒がる傾向にあります。専門性の低下や社会人としての責任感が感じられません。もう少し厳しくルールを決めて良いのではないのでしょうか。運転免許のように、単位をとっていれば（ルールを守っていれば）専門PTで何か得をする。とっていなければ免許の更新が必要とか…
- ・新プロの重要性をもっと伝えてもらいたい
- ・365日化や新人の増加での新人が受けやすい環境を整えて欲しいと思います

## 8) eラーニングについて (n=611)

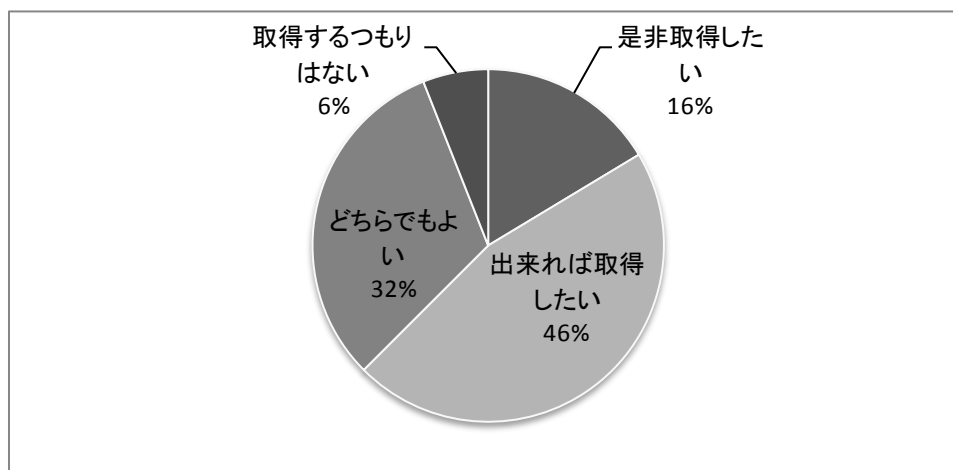


## 9) 専門理学療法士制度について

### (1) 専門理学療法士制度の理解 (n=691)



(2) 専門理学療法士資格の取得意思 (n=685)



### 10) その他の意見・要望

#### (1) 単位管理について

- ・ IC カードで一元化されるといい
- ・ 単位の管理がまともに行える体制を作っていただきたい。私は昨年手帳に添付してあるバーコードが古くてうまく行かなかった記憶があります。今までやってきた新人研修の単位もちゃんと管理されているのか不安です。県レベルでこれですから、全国となると、それなりの体制を整えてからスタートして欲しいです。
- ・ PC 上で確認できれば分かり易い
- ・ 自分の履修状況が分からない
- ・ 会員証での管理にしてほしい。新プロが終了したら何らかのメリットがないとこの制度は進まないと思う。専門 PT も同様に。
- ・ 受講ごとに協会管理しポイントの案内などを出して欲しい。受講証等で申請の場合、なくしてしまうこともあり、単位が進まない。
- ・ クレジットカードを利用し、管理するシステムの構築を願う。
- ・ 新人教育に関し、自分が今どこまで進んでいるのか分からなかったり、年1回の必須項目の研修会では業務等の都合で受講できないこともあり、困難。
- ・ ポイント管理が大変。何年とかの単位での管理は、いつ参加したか。ドレが単位として認められるのかの判断が難しく、実施が難しい。早く会員カードでの管理体制を作って欲しい。
- ・ カードで全て行えると楽になる。
- ・ ポイント制、資格制のため参加だけするものが増大。活発な意見交換が減っている。
- ・ 協会カードの IC 化により、情報管理をして欲しい。
- ・ 個人の責任ではなく、都道府県理学療法士会でポイント管理して欲しい。
- ・ ポイント管理は協会で行なって欲しい。都道府県理学療法士会の負担が大きい。
- ・ 会員証でポイント管理をして欲しい。
- ・ 受講した証明書を再発行してもらえらるシステムがあれば嬉しい。
- ・ 手間なく簡単に管理できるようにしてもらいたい。

- ・手続きを簡単にして欲しい。
- ・個人での管理や申請ではなく、協会で管理して欲しい。

## (2) 研修会の在り方について

- ・地方でも単位取得がとりやすい環境を…
- ・少ない休みでも単位が取りやすいように
- ・1~2年制で終われる期間制度が良いと思う
- ・情報提供をお願いします。何回も提供していただいてやっと履修率が上がってくると考えます。スカパを見ている。利点が少ないのはいかかかと思えます。
- ・会員が加入しやすいシステムを
- ・論文のポイントの範囲を広げて欲しい
- ・ブロックレベルの研修会にもポイントを
- ・共同演者にもポイントを
- ・専門をとるためにお金がかかりすぎる
- ・論文や学会発表をもう少し重視してほしい
- ・eラーニングをもっと積極的に活用してほしい
- ・e-learningは聞き流しになる気がする
- ・県によって読み替えの違いが大きい。
- ・新プロ修了に発表を入れているが、発表しなくても良い制度にして欲しい。業務をしながら発表する機会を作るのは難しい。専門PTの発表は良いと思うが・・・。
- ・症例発表をなくしてほしい。
- ・診療報酬に反映するなど無いとポイントをとめない人もいると思う。
- ・実技を取り入れたものや、症例提示してもらい直結した臨床のプログラムにして欲しい。
- ・年度ごとにテーマの名前や履修年が変わるため。自分の履修できていない科目が分かりにくい。
- ・各県での違いがあるため、症例検討を統一して欲しい。
- ・役員が得をするシステムである。大学院卒業がポイントになるなら、結局お金がかかる。臨床家や産休・育休の人への配慮がない。何を基準にポイントを決めたか説明して欲しい。
- ・実習指導でポイントが付くので病院は良いが、デイサービスでは実習生が来ないので、ポイントが付かない。ポイントの設定が高すぎる。
- ・実習指導のポイントと比べ学会発表のポイントが低い。
- ・実習指導期間が6週間の学校もあるので、6週間でもポイントに入れてよいのでは？
- ・現在の科目制では年に一度しかそこにハンコを押してもらえない・・・などということがたくさんあり、ハンコが20個以上あっても結局は修了できない。実際の研修や発表をベースにして、不足分をeラーニングで補える形になれば理想的かと思う。(全てeラーニングはまずいと思いますが・・・)
- ・その場でシールが発行されない研修会もあるのですべてその場で発行して欲しい。
- ・学会や研修会が都市部に集中しへき地からは単位取得が難しい。
- ・単位が取れる学会を増やして欲しい

### (3) 研修システムやメリットについて

- ・よく分からないことが多い
- ・説明がもっと必要
- ・何のためにしているかわからない
- ・給料が上がるなら頑張ります
- ・制度が複雑すぎる
- ・制度改定がわかりにくい、施設長や主任（看護師）に説明しづらい
- ・どうして行こうとしているのか分からない。現場に生かせるのか社会の中で生かさせていけるのか不安である。
- ・専門理学療法士というのも形式上？もっと患者に寄与できる形が重要（オーストラリアのようなスタイルはどうでしょうか？）
- ・移行がわかりにくい。
- ・資格としてのメリットがなければ、受講の必要性を感じない人もいる。病院や施設に対して、新プロや専門制度の必要性がある。
- ・専門 PT 制度がどのように変わるのか知らないでホームページを見てみようと思います。
- ・認定 PT（介護予防）になっているが、今後の制度変更で新プロ修了していないと認定 PT から外されてしまうのか？
- ・情報公開を早くして欲しい。
- ・仕組みを分かりやすく、しきいを低く。
- ・新プロや専門理学療法士制度についての説明会を開催して欲しい。紙面だとあまり実感が無く、理解するのが大変です。
- ・専門理学療法士の単位を取っても働く職場によってすぐに取得する気になれない場合があり、いつまでという期限は難しくなると思われる。
- ・制度導入し、会員が取得することのメリットの詳細が欲しい。また、スキルアップだけでなく、それを元にした仕事場選択が制度的（現場への活用、活用できる病院の体制）になるようにして欲しい。
- ・分かりやすければありがたい。
- ・新しい制度は理解できるが、移行措置が良く分からない。
- ・必要なポイントの制限が多く分かりにくい。
- ・新プロを修了していないデメリットがあまりない以上新プロの必要性は低いように思う。強制も必要では？
- ・専門 PT 制度を詳しく理解していないので引き続きわかりやすく提示して欲しい。
- ・専門の必要性・メリットがわからない。
- ・ポイント獲得後のメリットが資格や名称だけでなく、会費のサービスや参加費の〇%off など直接的なメリットを与えるなどといったシステムはどうか？
- ・新プロを修了する意味や専門 PT になることで社会的にどのような意味を持つのか等明確にして欲しい。
- ・説明も難しくて内容が理解できない。義務なのか希望なのかも良く分からない。
- ・説明会に参加できなかったので何度かやって頂きたい。

- ・メリットを明確にし、意欲を高めるようにして欲しい。新プロを修了しなくても学べる研修を選択する人も多いのではないか。
- ・現在は知識があってもなくても診療報酬は同じ。学習意欲のない人は退会させ PT の質の向上をはかり、診療点数 UP に目を向けて欲しい。
- ・専門 PT に関しては臨床業務を行いながらでも取得や維持が可能であれば取得したい。
- ・都市部と地方の差が大きく専門・認定 PT は都市部に集中してしまい地方との身分格差を生じてしまうのでは？

#### (4) その他

- ・最終決定時にもう一度資料をいただければと思います。講習会等に関して都市部と地方の格差をどのようにするのかとういことに不安を感じます。開催するだけで内容が地方になればなるほど質が落ちることは在ってはならぬと思います。
- ・色々ご苦勞はありますが付加価値のため、質向上のために良いシステムを
- ・多忙で専門 PT どころではない
- ・卒後の明確な誘導がないため、何もしなくても PT でいられて、勉強せずに過ごすことも出来るので、職能団体としてしっかりして欲しい。
- ・他の団体より認められる制度にしてほしい。
- ・現場の仕事を向上させる制度であって欲しい。
- ・個人のモチベーションだけでなく体調や家庭環境もあるため、10 年以内といった制度は不適切と思う。
- ・積極的に専門 PT になりたい気持を多くの会員が持てるようなシステムになると良い。
- ・取得していなくても支障ないのが現状。だからといって強制されるのは協会からのパワハラではない。
- ・わかりやすく取得しやすい環境を。
- ・ほぼ納得している。
- ・頑張って専門の資格を取ったとしても維持していくのは難しいという印象がある。
- ・この制度を社会的認知度のあるものにして欲しい。
- ・専門 PT の必要性は感じている。最近勉強が滞りがちなので頑張りたい。
- ・専門性を高めるために苦勞して取得することも必要。
- ・治療目的と治療ができて PT だと思っているので、専門は必要ない
- ・まだ良く分からないが、労力を費やして何をしようとしているのか分かりにくい。特に新人は分からずに協会離れを起してしまうのでは？

## 新人教育プログラムに係わるアンケート調査ご協力をお願い

日本理学療法士協会 研修システム等検討委員会  
委員長 梶村 政司

平素より当協会事業推進にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、現在当委員会では新システムに向けて検討を行っています。その中で新人教育プログラム（新プロ）の履修率が低いことが問題となっているため、問題点の抽出・分析等を通して、新プロのあり方について再検討を行うところです。

学会参加中のお忙しいところではありますが、本調査の目的、趣旨をご理解いただきご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

なお、記述欄に限りがありますので、裏面をご利用ください。

### 1. 基本情報にお答え下さい。

現在の所属都道府県理学療法士会は、\_\_\_\_\_。 性別：□男性 □女性  
協会に入会されて何年目になりますか？（再入会の場合は再入会後の年数をお答え下さい。）  
□1～3年 □4～5年 □6～10年 □11年以上

現在の所属施設と理学療法士の人数を教えてください。

□医療保険関連施設 □介護保険関連施設 □行政 □養成施設 □自宅会員（非常勤勤務）  
□その他（ ） 自分以外の理学療法士は（ ）人

### 2. 新人教育プログラム（新プロ）の履修状況についてお聞きいたします

□平成5年以前の入会（移行措置により新プロ修了） →設問9へ  
□平成6年以降の入会で新プロは既に修了している  
→入会から新プロ修了までに要した期間は？（ ）年 →設問5へ  
□まだ修了していない（入会后10年以内の会員） →設問3へ  
□入会后11年以上経過しているがまだ新プロは修了していない →設問4へ  
□興味がないまたは履修をあきらめた →設問6へ

### 3. 未履修の科目は、どれですか？

□全て未履修である →設問5へ  
□一部未履修である → 未履修の科目を下表にチェックして下さい

1年次				
<input type="checkbox"/>	「理学療法士・作業療法士および関係法規」			
<input type="checkbox"/>	「地域におけるリハビリテーション」			
<input type="checkbox"/>	「職業倫理・管理運営」			
<input type="checkbox"/>	「協会組織と生涯学習システム」			
<input type="checkbox"/>	「理学療法トピックスⅠ」			
<input type="checkbox"/>	「症例検討Ⅰ」			
2年次				
<input type="checkbox"/>	「社会の中の理学療法」			
<input type="checkbox"/>	「学問としての理学療法と研究方法論」			
<input type="checkbox"/>	「生活環境支援」			
<input type="checkbox"/>	「人間関係および労働衛生」			
<input type="checkbox"/>	「理学療法トピックスⅡ」			
<input type="checkbox"/>	「症例検討Ⅱ」			
3年次				
<input type="checkbox"/>	「世界の理学療法」			
<input type="checkbox"/>	「生涯学習と理学療法の専門領域」			
<input type="checkbox"/>	「理学療法士と保険制度」			
<input type="checkbox"/>	「理学療法の教育方法論」			
<input type="checkbox"/>	「理学療法トピックスⅢ」			
<input type="checkbox"/>	「症例検討Ⅲ」			

→設問5へ

### 4. 必須教育プログラム対象者（入会后10年で新プロ未了）の方へ

現在までに履修した必須教育プログラムの単位数は（ ）単位 →設問5へ

5. 現在の新プロに対してお聞きいたします

- (1) 計 18 単位の単位数について  
 多い             適切である             少ない             わからない
- (2) 新人研修会の開催日数について  
 開催日は多い    適切である             開催日が少ない    わからない
- (3) 新人研修会の開催場所について  
 便利である       不便である             どちらともいえない

6. 新プロについて履修が困難な（困難であった）理由がございましたらご記入下さい

---



---

7. 今後の新プロに対して望むことや必要なこと等、ご意見がございましたらご記入下さい

---



---

8. e ラーニングを新プロに取り入れた場合、利用しますか？

是非利用したい	利用すると思う	利用するかもしれない(わからない)	利用しない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※e ラーニングとは、パソコンやインターネットを利用した教育のことをいいます。そのメリットとしては、①受講者の都合のいいときに受講できる、②集合教育のように移動の時間と費用を使わなくてすむ等が挙げられます。

9. 専門理学療法士制度についてお聞きいたします

- (1) 現在、専門理学療法士制度を再構築しているところですが、その経緯については協会ニュースやホームページで「変わります！専門理学療法士制度」でご案内しています。現在は第 6 報まで掲載していますが、その内容についてはご存知ですか？

理解している	部分的には理解している	変わることは知っているが内容はわからない	変わることも体知らなかった
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- (2) 新しい専門理学療法士制度は 2013 年から実施する予定ですが、その場合専門理学療法士の資格を取得する意思がありますか？

是非取得したい	できれば取得したい	どちらでも良い(わからない)	取得するつもりはない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

10. 新プロや専門理学療法士制度（ポイント制）の単位管理についてご意見・ご要望はありますか？

---



---



---

ご協力有り難うございました。会場出口で回収いたしますのでボックスに投函して下さい。

## Ⅱ. 主催者(都道府県理学療法士会)に対する新プロアンケート調査

### 1. 調査目的

本調査は新プロ修了に関わる問題点を、主催者側(都道府県理学療法士会)の立場から明らかにして、今後の研修システムを考えるための基礎資料を得ることを目的とする。

### 2. 調査期間

平成 21 年 9 月 30 日～10 月 31 日

### 3. 調査方法

都道府県理学療法士会を対象とした自記式アンケート法で調査を実施した。調査項目は基本情報、開催困難な科目、科目読み替え、単位修得状況の把握、及び専門理学療法士制度に関する調査項目である。(アンケート用紙は P35～P37)

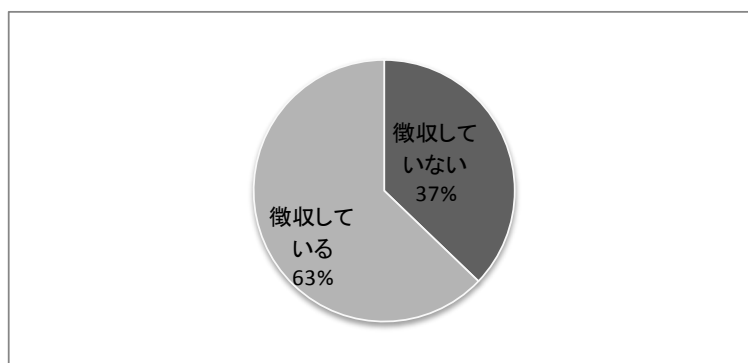
### 4. 調査対象

47 都道府県理学療法士会にアンケートを配布し、回答の得られた 43 都道府県理学療法士会を対象とした。(回収率 91.5%)

### 5. アンケート調査結果の概要

#### 1) 新プロ受講の手数料について (n=43)

新プロの認定手数料として、徴収している都道府県理学療法士会が 27、徴収していない都道府県理学療法士会が 16 であった。下表に徴収方法・金額の詳細を示す。1 科目あたり 1000 円以下を徴収している都道府県理学療法士会が最も多く認められた。

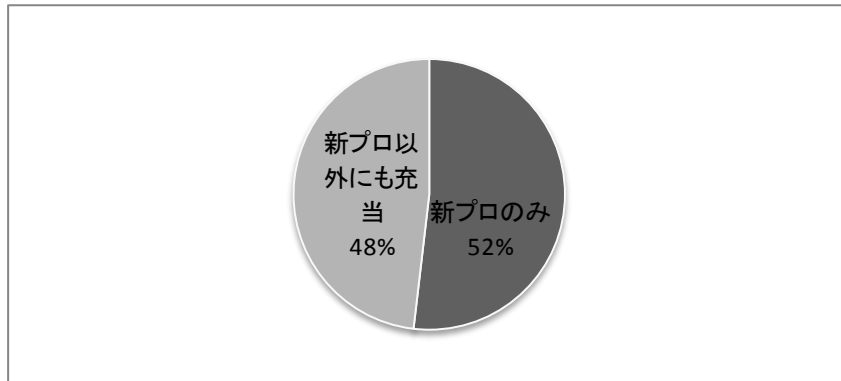


徴収方法	1千円以下	5千円以下	1万円以下	1万円超過	合計
1科目当り	21	1	0	0	22
1年間	1	0	0	0	1
一括払い	1	1	1	0	3
回数券	0	0	0	0	0
半日当り	0	1	0	0	1
1時間当り	1	0	0	0	1
合計件数	24	3	1	0	28

※大分県理学療法士会は1科目当りの徴収と一括払いの2種類の徴収。∴23→24件

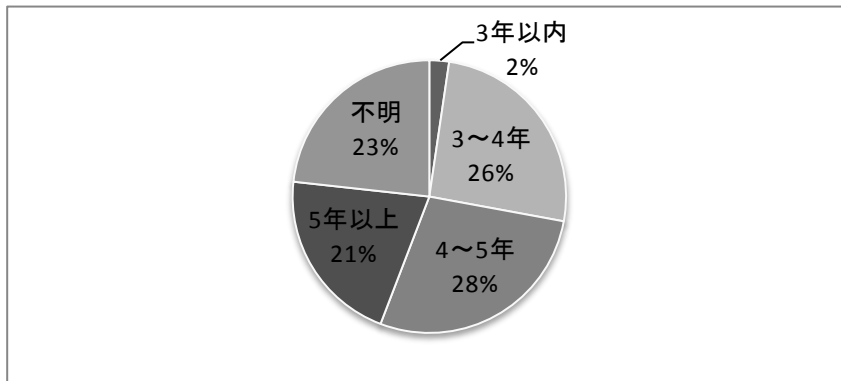
## 2) 新プロ収入の使途 (n=27)

新プロ収入の使途については、新プロ事業のみに使用している都道府県理学療法士会が14、新プロ事業以外にも使用している理学療法士会が13であった。



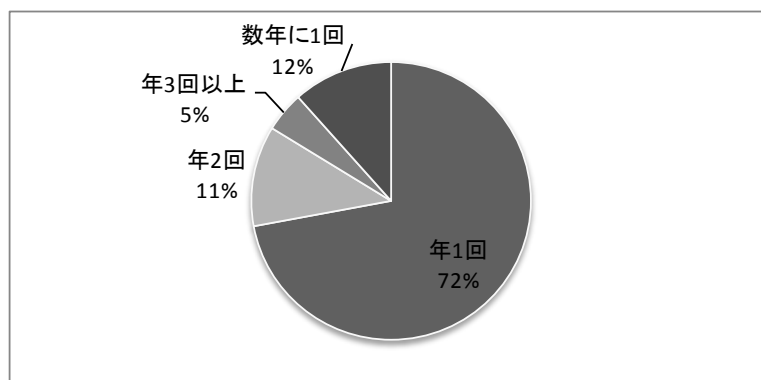
## 3) 新プロ修了の平均期間について (n=43)

新プロを修了する平均期間は、3年以内の都道府県理学療法士会が1、3～4年は11、4～5年は12、5年以上は9、不明は10であった。



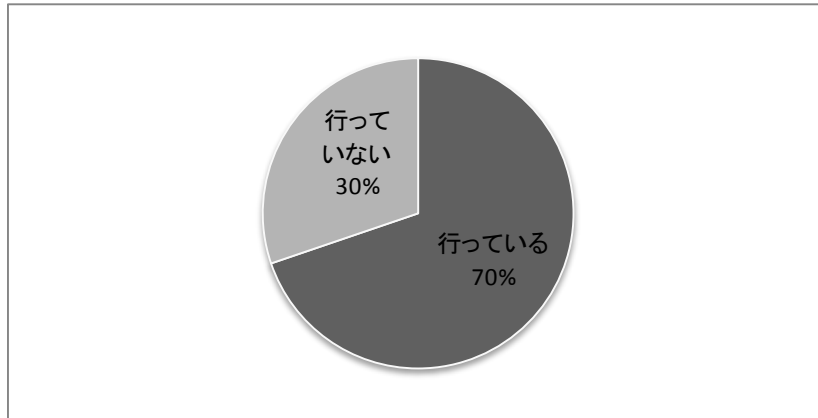
## 4) 1科目の年間開催数 (n=43)

新プロ科目（トピックスと症例検討を除く）の年間あたりの開催数については、年1回のみの都道府県理学療法士会が31、年2回が5、年3回以上が2、数年に1回が5であった。年2回以上開催しているのは7理学療法士会で16%に留まり、84%は年1回以下の開催状況であった。業務の都合等で参加できなかった場合、ほとんどの理学療法士会で一年以上待たなければならない状況は、新プロ履修の大きな弊害となっているといえる。



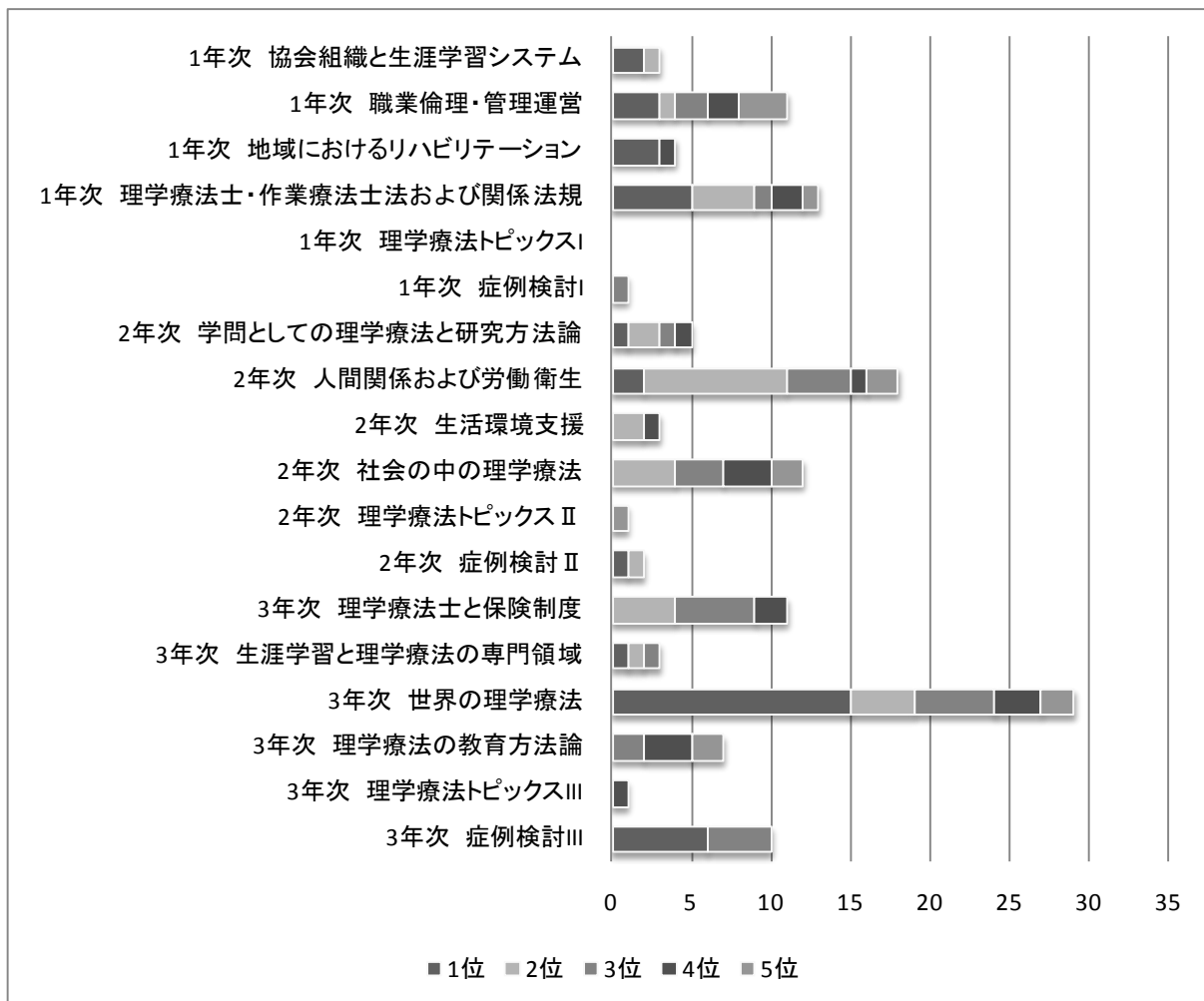
### 5) 必須プログラムの広報について (n=43)

必須プログラムの広報状況については、広報を行っている都道府県理学療法士会が 30、行っていない理学療法士会が 13 であった。



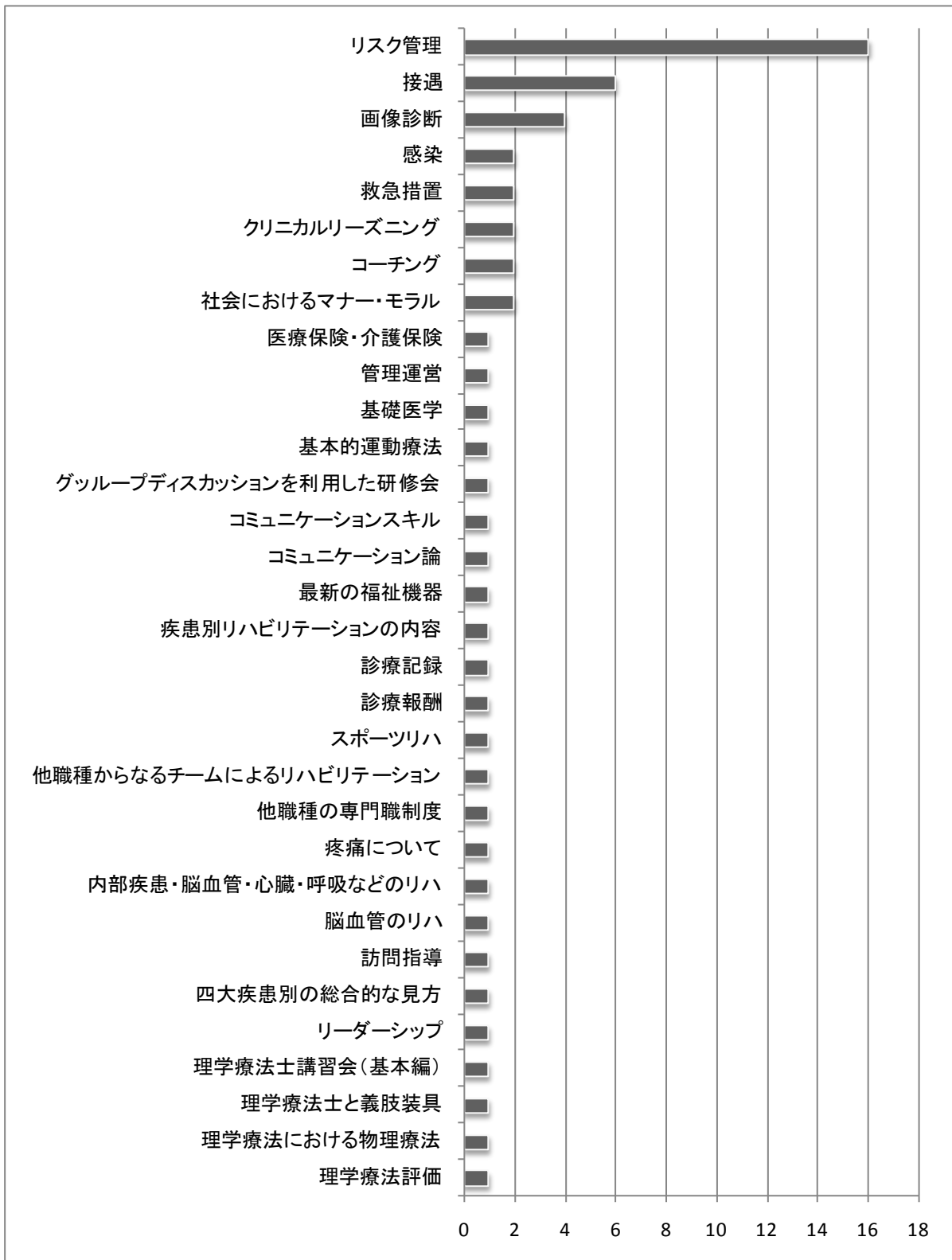
### 6) 開催が困難な科目について (n=12)

主催者の立場から開催困難な科目について、困難順に 5 科目回答してもらった結果、1 年次の開催困難な科目として、「理学療法士・作業療法士および関連法規」「職業倫理・管理運営」、2 年次では「社会の中の理学療法」「人間関係および労働衛生」、3 年次では「世界の理学療法」「理学療法士と保険制度」「症例検討 3」があげられた。



### 7) 現在の新プロ科目以外で望みたいテーマについて

現在の新プロ科目以外で望みたいテーマについては、「リスク管理」が16ともっと多く、「接遇」が6、「画像診断」が4の順で要望が高くなっていた。



## 8) 読み替えの範囲について (トピックスと症例検討以外の読み替え)

読み替えの範囲について以下の表に示す。協会主催または都道府県理学療法士会主催の研修会等で読み替え科目を指定して、読み替えを認めている理学療法士会が大部分を占めていた。

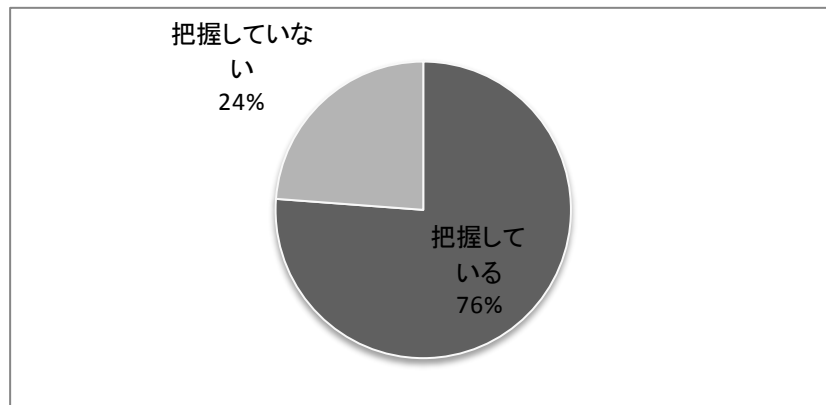
読み替えの範囲	件数 (%)
協会主催の学会・研修会(科目指定)で認めている	24 (43%)
協会主催の学会・研修会(科目自由)で認めている	2 (4%)
士会主催の研修会(科目指定)で認めている	21 (38%)
士会主催の研修会(科目自由)で認めている	0
その他	8 (15%)

「その他」の項目で自由記載例を以下に示す。

- ・研修内容を吟味し、規定に満たされる場合は所定の科目について読み替えを認定。
- ・症例検討Ⅲは発表のみ単位として認定しているが、複数の施設が集まる学会・研修会・勉強会での発表は認定している。
- ・都道府県理学療法士会の年間研修計画に従って、研修管理部において読み替え指定を行っている。
- ・現在、「理学療法の教育方法論」のみ「臨床実習教育研修会」で読み替え。
- ・基礎プロの対象となる研修会・学会について、本人から申し出があった場合のみ。
- ・学術集会への積極的な参加を促すため、できる限り広く認めるようにしている。
- ・ブロック学会での指定科目の読替。
- ・学術大会（東京都）での年次別テーマセミナーのみ読み替えを実施。

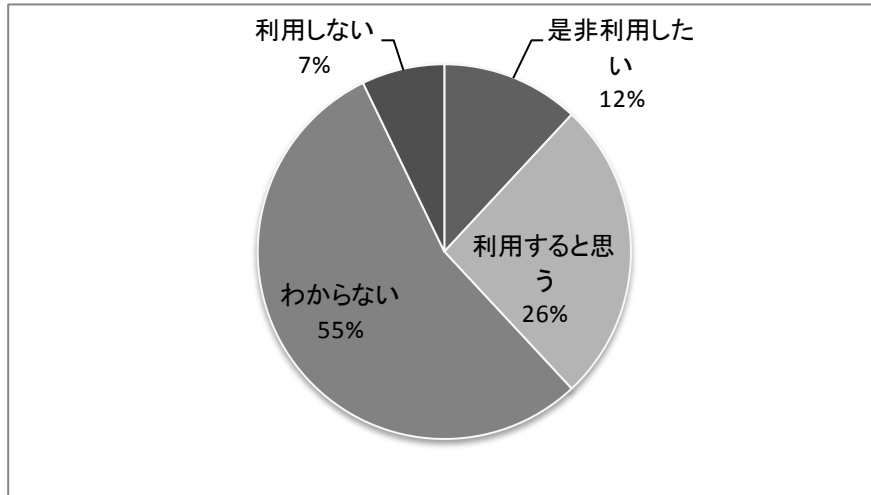
## 9) 会員の単位取得状況の把握について (n=42)

会員の単位取得状況について、把握している都道府県理学療法士会が 32、把握していない理学療法士会が 10 であった。



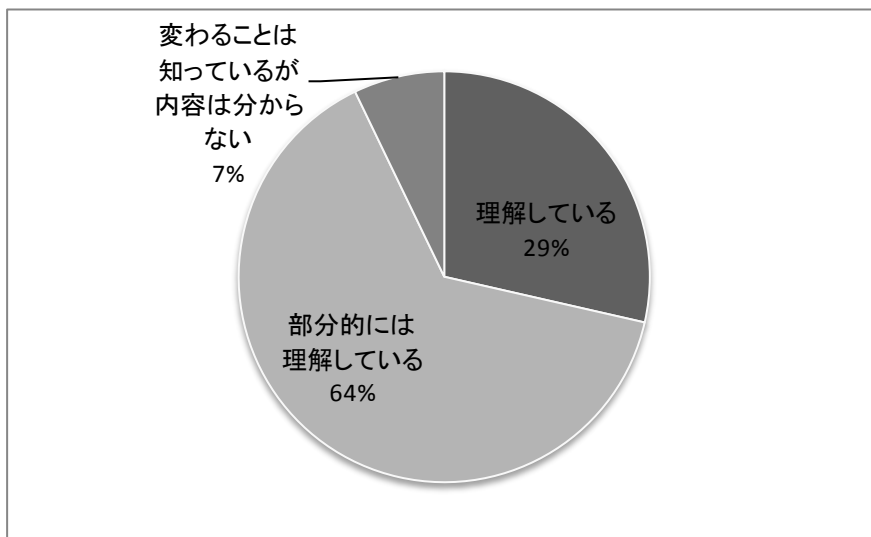
### 10) eラーニングの利用について (n=42)

eラーニングを取り入れた場合、利用するかどうかについて、是非利用したい都道府県理学療法士会が5、利用すると思う理学療法士会が11、わからない理学療法士会が23、利用しない理学療法士会が3であった。「わからない」と回答した理学療法士会が約半数有り、慎重な対応を取る理学療法士会が多く見られた。



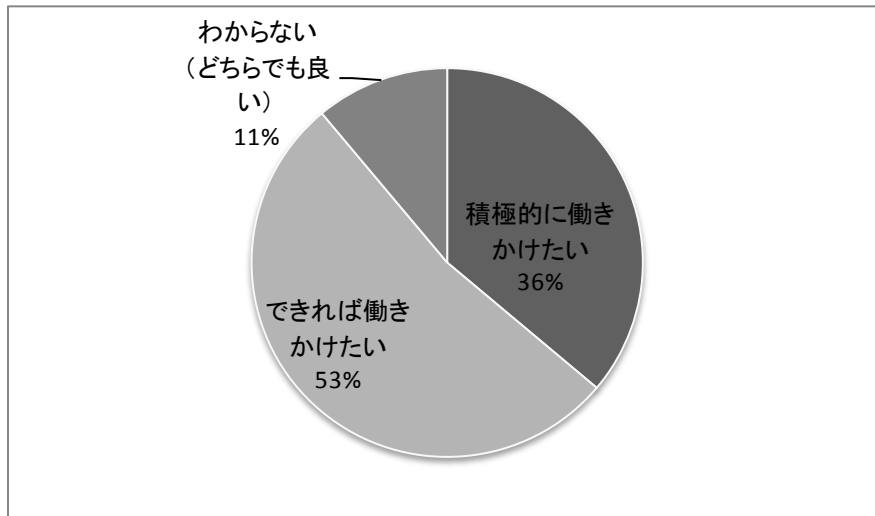
### 11) 専門理学療法士制度の理解度について (n=42)

専門理学療法士制度に対する理解度について、理解していると回答した都道府県理学療法士会が12、部分的には理解している理学療法士会が27、変わることは知っているが内容は分からない理学療法士会が3、変わることを知らなかった理学療法士会は0であった。理学療法士会役員レベルに於いても「部分的」理解に留まっている現状が伺えた。



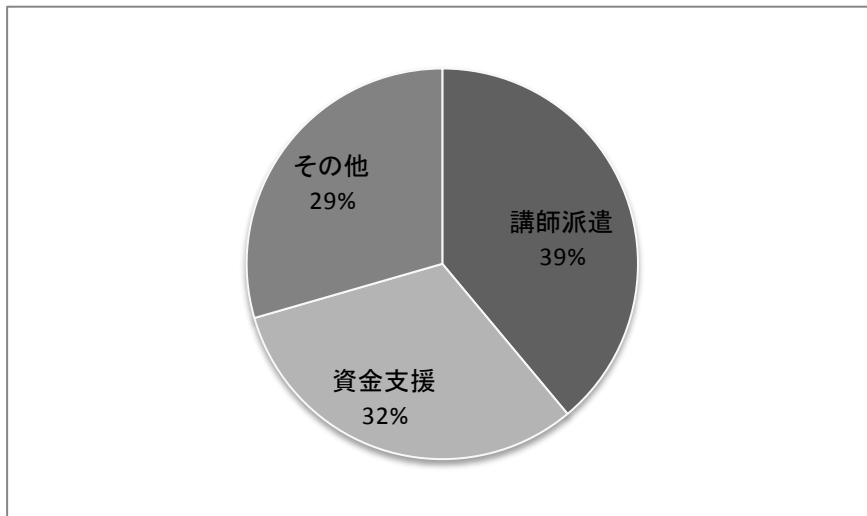
### 1 2) 専門理学療法士の資格取得への働きかけ (n=36)

会員への専門理学療法士の資格取得へ積極的に働きかけるかについて、積極的に働きかけたい都道府県理学療法士会が 13、出来れば働きかけたい理学療法士会が 19、分からない理学療法士会が 4、働きかけない都道府県理学療法士会は 0 であった。「出来れば働きかけたい」が最も多く見られた。

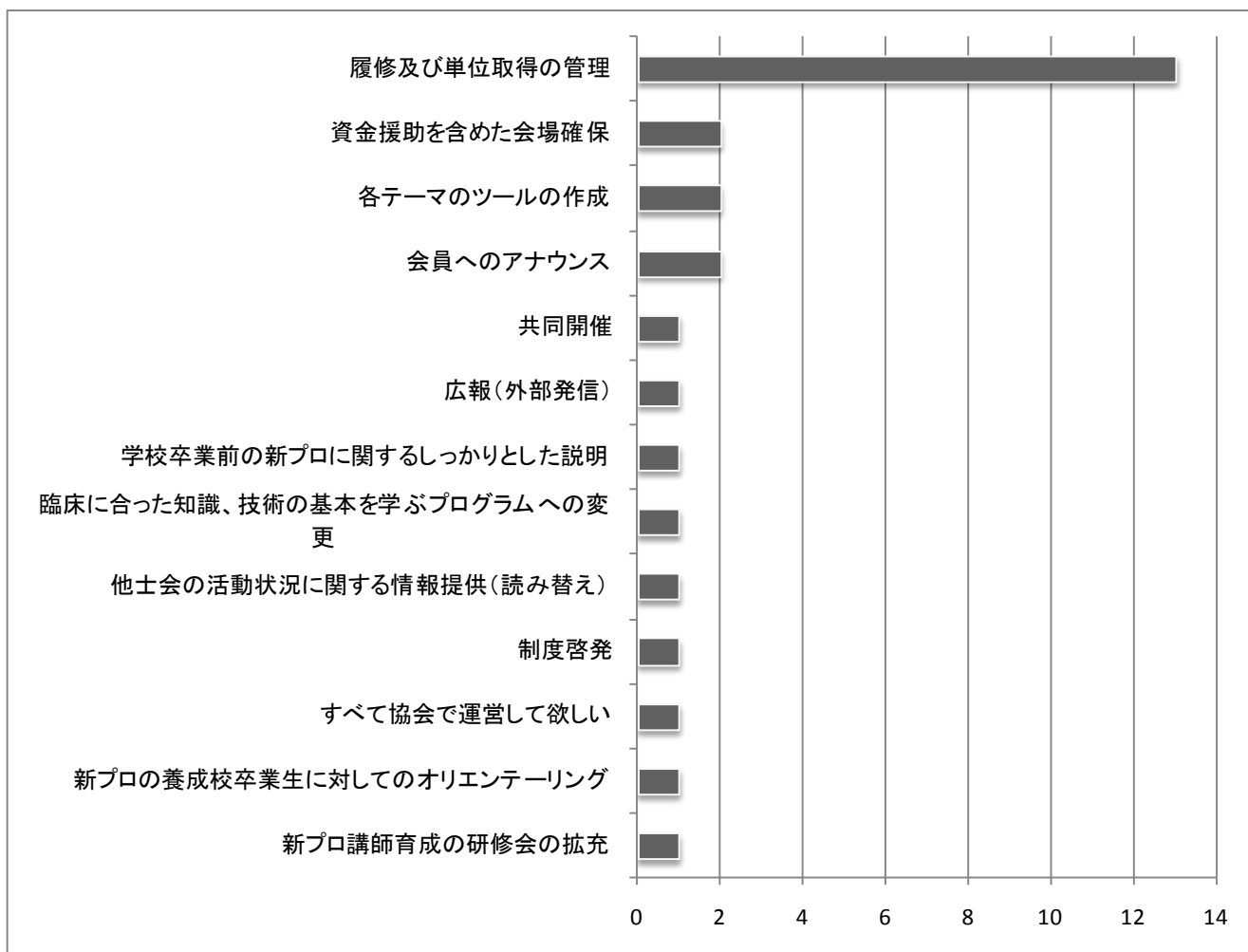


### 1 3) 新プロに対する協会の支援について

新プロに対する協会に望みたい支援について (複数回答)、講師派遣は 37、資金援助が 30、その他が 28 であった。



「その他」についての自由記載例を以下に示す。その他の記載例では、「履修および単位修得の管理」に関する内容が 13 と最も多く見られた。



#### 1 4) 新プロや専門理学療法士制度(ポイント制)の単位管理について

自由記載例を以下に示す。

- ・専門理学療法士制度(ポイント制)の都道府県理学療法士会主体ではなく協会主体での一元的な単位管理システムの早期実施を強く希望します。
- ・担当者の私見として、試行から開始されているので、正直困惑しています。理学療法の認知度を高める上では必要かと思いますが、見切り発車というか、作業手順のあいまいさを感じ取れます。何が正しいことなのか、正確に会員へ通達できない現状があります。
- ・ポイント制となり、研修会や学会などの質の向上が求められ、研修会開催が増えております。開催する実務担当者の負担がますます増えます。給料を得る通常勤務以外の、都道府県理学療法士会の仕事が増えることは、正直望ましいことではありません。両方大事であることは承知していますが、責任の重さの中で、取り組んでいるのが現状だと思います。今後、実務担当者がスムーズに活動できる(通常業務に負担をかけない)サポートをしていただきたいです。
- ・〇〇都道府県理学療法士会の2007年度の修了者数が0名になっています。申請手続きはどうなっているのでしょうか。協会との差があるので運営上支障をきたしています。
- ・新プロまたは専門理学療法士制度について、担当者も十分に理解できていないため対応に苦慮している。可能であれば、各県担当者に対して基本的な制度の説明をして頂ける機会を設けてほしい。もしくは、相談窓口のようなものを設置していただきたい。

- ・単位管理については現行の手帳に印が押してあるか否かの状態では、会員本人も単位状況を把握しきれないと思われる（よく問い合わせがあるケースとしては、受講証明は持っているが有効であるか等）。
- ・研修会を今以上に開催機会を増やすにはマンパワーが足りなすぎるのも問題と感じている。現状では、一部の担当者にものみ負担がかかりすぎ、業務にも支障をきたすことが懸念される。
- ・専門理学療法士制度（ポイント制）については、概略はある程度わかるが、具体的にどうなるのかがよく分からず、会員に説明しにくい。
- ・会員にメリットがある制度でないと、新入会員の修了率が上がらない。職場環境による格差をどう介入していくか？が当都道府県理学療法士会での課題であります。
- ・会員証を利用した管理にして欲しい。
- ・都道府県理学療法士会として大変なのは、手帳への検印、単位管理、終了証の申請、交付などの事務作業です。会員証の有効利用により、協会一括管理が実現すると良いのですが、現在の会員証普及状況では難しいと思います。新システムについて、会員からの質問に都道府県理学療法士会の生涯学習担当者がさらされていますが、HP以上の情報がないので回答に困っています。協会に問い合わせしても不明な場合もあるので、Q&Aの充実など早急に対応していただきたい。
- ・早期に会員証による単位管理システムの構築、新プロ修了のメリット・デメリットを明確に提示していただきたい。さらに認定・専門PT取得後の方向性等を明確に提示していただき、また職能集団として新プロ・認定・専門PT取得意義について会員に対して明確にご提示お願いいたします。
- ・生涯学習の展望を若い会員に伝えていきたい。
- ・全国共通のシステムで単位管理を行えるシステムを早急につくっていただきたいと思います。（おそらく長年の課題）新人会員の増加に伴い、部員で仕事の合間に管理を行っていくには限界に近づきつつあります。協会の方でシステム作りを検討されているということで、都道府県理学療法士会ではシステム作りをせず待っています。（費用の関係）また全国共通のものがあれば、会員が移動したときに便利だと思われる。基本的に単位は個人管理とし、新プロに関しては担当者がアクセスして単位取得状況を確認できるようにしてもらえるとありがたいです。（ステップアップ方式を採っているため、次の年次に進むときに前の年次が修了しているかどうかを確認しています）。
- ・会員全ての単位管理は、各都道府県理学療法士会事務局を通して一元化して、PT協会本部が管理することは急務である。
- ・専門理学療法士制度について：まだ決まっていない点について、すみやかに協会側の意思決定をしていただきたいと思います。8月23日の全国都道府県理学療法士会長会議において、専門領域研究部長長澤部長より「Q&A集を早急に出したい」という発言があったと記憶しておりますので、お願いいたします。できれば、協会ホームページにQ&A集を載せ、随時更新していただければと思います。
- ・当都道府県理学療法士会では、新年度スタート前に次年度の「教育・研修計画」冊子を発行し、全会員に配布しています。今回の生涯学習基礎プログラムシステムの変更により、理学療法士会主催の研修会は前もって協会への報告が必要でしょうか。また、研修会の内容により、専門領域ごとにポイント対象となるか判断すると伺っており、理学療法士会担当者には管理が煩雑になることも予想されます。早い段階で、明確なシステムの提示をお願いします。
- ・新プロ単位管理について、当都道府県理学療法士会ではトピックスや症例検討Ⅲ以外は講義を行い、読み替え無しで実施しています。教育方法論のみ臨床実習指導者研修会参加で認めています。講義の参加の有無で履修状況を確認できていますので、極力読み替えなしの新プロ対象者のみの研修会をするこ

とで、新プロ修了者との混在をなくし、円滑な単位管理を図る必要があるかと思えます。

- ・専門理学療法士制度（ポイント制）の単位管理について、各ポイントは学会参加や論文、講師経験など多岐に渡り、管理は各人が行わなければ難しいと思えます。会員証を利用した管理では、クレジット機能を有するため、会員の同意は得られにくいのではないのでしょうか。
- ・eラーニングについては、通常の講義を受けられない場合の補足手段として活用できるかと思えます。制度が変わる際にホームページに掲載するだけでなく、事前に連絡をいただくと生涯部での対応も円滑にできるのでありがたいです。
- ・会員の増加に伴い生涯学習だけの把握は困難となってきています。できれば、外部委託などの措置をとって頂きたいです。
- ・新プロは都道府県理学療法士会で新人教育研修会などを開催となり、当理学療法士会でも新プロ対象者全員の単位を確保しています。しかし近年対象会員の急増に伴い、業務量が増え苦慮しています。したがって協会主導で単位管理のITシステムを早急に構築していただきたい（会員カードの有効利用等）。
- ・新プロ修了後は個人で単位管理にしていますので、当理学療法士会では単位管理しておりません。ただし、今まで生涯学習基礎プログラムの更新のために、生涯学習手帳への検印を年2回行うことで単位取得を促してきました。今回の専門理学療法士制度改正によって、ポイント制となり、ポイント取得の規定が定義されたので、基礎プログラム更新のために行っていた検印は不要になると思われまます。現在でも都道府県理学療法士会ではポイントの管理は不可能であり、今後も理学療法士会を通さずすべて個人と協会間で手続きするシステムにしていただきたいと思えます。
- ・新プロの履修率の向上やより多くの会員を専門理学療法士へと導いていくためにも、協会から会員へ十分な情報を提供していただきたいと思えます。
- ・新プロに関しては、本理学療法士会では生涯学習部が管理をしています。非常に煩雑です。既存の生涯学習システムに関しては個人管理としています。かなり前と思えますが、クレジットカードにて単位の管理が可能になるようなお話を聞いたことがありますが、そのようなシステムが整えば、管理しやすくなると思えます。協会のほうに、自分の番号を入力すると現在のポイントなどがわかれば、単位取得に向け、講習会に参加しやすくなったり、個人での管理が簡便になると思えます。
- ・IT化の方が、主催者側・受講者側にとって管理がしっかりできると思えます。会員数増により会場確保・運営などが大変になりつつあると聞いています。そういった意味でも地区別での開催が望ましいと思えますが、IT化（ポイント管理、運営費聴取）、講師の確保、運営スタッフの確保が最低限必要になると思えます。
- ・eラーニング等通信手段を活用できれば、現在起こっている会場や講師の選択等の手間は必要なくなると思われまます。ただし、県都道府県理学療法士会ごとに実施となると、コスト的な問題や、メディアの利用方法等の課題が出てくると思われまます。協会主導で、幾つかの項目の通信化を行っていただくとありがたいと思われまます。
- ・新制度に関する問い合わせが多い。担当者が十分理解しておらず、都道府県理学療法士会員向けの説明会を行ってほしい（新プロ修了者からも要望あり）。
- ・単位管理について、新プロは都道府県理学療法士会で行っているが、協会で行ってほしい。会員移動のときの確認が困難（手帳紛失時は調査困難）。
- ・単位管理について、協会カードを利用して、登録ができるシステムを作成してもらえたら、管理が明確になり、自己管理が可能になるのではないかと思えます。システムを確立し、読み取り端末を支給する

ことにより、可能になると思います。

- ・会員証等での一括管理への変更を期待します。会員が増加し、理学療法士会単位でのポイント管理は現実的に困難になってきている印象があります。できれば、協会として組織を組んでいただき、一括管理を期待します。
- ・基本的に新プロは今後もカリキュラムの見直しで構わないと思います。履修状況の管理が徹底されていないので（当都道府県理学療法士会だけかもしれませんが）、極論「新プロは duty」とはっきり明示しても良いと思います。理学療法士会の履修率が低いのは履修管理が徹底されていないことも影響していると反省しています。これは担当者の甘えなのですが、履修管理に協会本部の関わりがあると非常に助かります。
- ・専門制度は目指すところはよく分かりますし、質を上げることに繋がる期待をもちますが、担当者としては、移行期に会員に分かりやすい説明をするための雛形が欲しいです。またポイント内容に関しては最も高いポイントが機関誌投稿の筆頭著者というのは疑問を感じます。恐らく当協会の機関紙はインパクトファクターがついていないと想像しますが、リハ関連の原著をインパクトファクターのある雑誌に掲載されることより機関紙投稿のポイントが高いのはいかがなものでしょうか。あくまで私見ですが、社会や他団体に足並みを揃える専門理学療法士ならばポイント内容は考える必要があると思います。
- ・それぞれのカリキュラムが必要なことは理解できるが、少し細かすぎるような気がする。必要な科目を9～12科目程度にしぼり、残りを学会への参加によるポイント制とし、併せたものを新人教育プログラムとすればいいのではないのでしょうか。
- ・新プロ修了者は強制的にどこかの専門領域研究会に所属するようなシステムにしてみてもどうでしょうか。今のままではせっかく新プロが修了しても、多くの会員がそのままの状態ですトップしてしまいます。必要であれば、研修会の部門の数を増やすのも一法と思います。
- ・新プロの単位管理については、現在各都道府県が管理するシステムとなっているが、会員数の急激な増大・職場環境の多様化・生涯学習に対する個人意識の差などの変遷に伴って、できればカードを利用し、全て個人管理とするほうが現状に適合しているように思う。また専門理学療法士制度のポイント制については未だ各専門領域からの明確なシステムが出揃わない時期に、スタートしているため、会員への説明に非常に苦慮しているのが現状です。
- ・専門理学療法士制度（ポイント制）について、協会から制度説明会をお願いしたい。都道府県理学療法士会担当者は制度について把握しようとしているが、詳細については分からないことが多い。しかるべき時期に協会担当者の説明を希望する。
- ・ポイントの管理を個人で行いやすく、分かりやすく、簡単に行えるようにして欲しい。また、履修ポイントの確認も簡便に行えると良い。
- ・理学療法都道府県理学療法士会だけでなく、関係する団体の学会大会での発表や参加も認定されるようにして欲しい。
- ・単位の管理に限らず、会員管理を一元 IT 化していただきたい。
- ・年間3回（3会場）の新人研修会開催のほか多数のトピックス症例検討に対応した勉強会を企画。
- ・今年度は専門理学療法士制度への移行に影響され、多数の新人プロ、必須プロ会員が新人研修会に参加している。
- ・生涯学習システムの礎としての新人プログラムの重要性を今後とも強調していくとともに、専門理学療法士への研鑽も進めたい。

- ・養成校、教育機関での指導も強化していただきたい。
- ・新人会員の増加により、各県の生涯学習部の管理も限界に達しています。協会として、内容を見直すだけでなく、管理運営する方法（例えば管理ソフト、バーコードなど）を具体的に考えてほしい。
- ・新人教育プログラム修了後に専門領域研究会への登録を促していますが、思うように進んでいない状況です。また登録したかどうかの状況が県で把握できないために、どの程度の会員が登録しているかを把握できず、こちらから促すことができません。『専門領域登録は必須です』と機会あるごとに伝えていますが、どの程度伝わっているかが大変不安です。
- ・新人教育プログラムを修了した会員が専門領域研究会に入会しない場合には、何らかのペナルティが発生するのでしょうか。また入会しない場合には数年経ってからの入会が可能なのでしょうか。現在新プロを修了している方が登録してもらえるかが課題です。
- ・(旧)生涯学習基礎プログラムの更新窓口は日本理学療法士協会となっていましたが、今後専門領域研究会入会後の単位管理はどこが行うのでしょうか。
- ・会員からの質問で、『日本糖尿病療養指導士（以下CDE）』の資格更新の際に”生涯学習基礎プログラム更新を証明するもの”があれば、理学療法士に関わるCDEの単位の認定ができるようになっていましたが、今後はどのようになるのでしょうか。（専門領域研究会での更新などを利用するのでしょうか）
- ・eラーニングに関して。熊本県都道府県理学療法士会では遠方の会員へ中央部で開催された研修内容をビデオで撮影し、各地区を回り、単位履修を促しています。このeラーニングが普及すれば、遠方の会員もスムーズに受けることができますので、非常に良いと思われまし、推奨してゆきたいと思います。全国の講義レベルを統一する効果もあると思いますので、その点でも大いに活用したいと考えています。一方、ただ聞くだけになってしまうのではないかとやや不安です。『早送り』などでキーワードが分かったりするのでしょうか。
- ・現在、必須教育プログラムに移行している会員が多数いる現状です。協会の中では非常に重要な位置を占める10年越えの経験者の会員が新プロを修了させなければならないという意欲はあるものの、今から新人と一緒に研修を受けることに抵抗感があるとの意見があります。この件に関して協会独自で読み替えを行ってもよいのでしょうか。具体的に、適切に、読み替えることが可能なテーマがないのですが、今後どのようにすれば必須教育を進めることができるかをご検討いただければ助かります。
- ・先日、東京で開催された日本理学療法士協会臨時都道府県理学療法士会長会議へ参加させていただきました。専門理学療法士や認定理学療法士の位置付けや今後の協会の方向性が明確に伝わりました。また、看護協会の専門（認定）看護師の位置付けなどについても示されており、大変参考となりました。この会議の中で出てきた話を各都道府県の生涯学習担当のレベルまで直接お話しいただければ、生涯学習システムの重要性がより伝わるのではないかと肌で感じました。
- ・専門理学療法士制度のポイント管理は自己管理だと思われましので、問題は新プロの単位が来年度どのように変更されて、1・2・3年次の講座が変更されるのかが分からないので、早く結論を出してもらいたい。
- ・ポイントが取得できる講習会が以前よりも限定されてきていると理解しています。鹿児島は離島の全員を抱えているので、離島の方々に何らかの配慮ができないか思案しています。離島の全員に対するポイント取得上の特例措置はできないのでしょうか。
- ・全国統一の単位管理表がほしい。（全国統一であれば、移動会員があった場合、確認しやすい）
- ・管理ソフトがあればと思います。（氏名、会員歴、取得単位、取得年数、etc）

新人教育プログラムに係わる【主催者側】アンケート調査ご協力をお願い

問1. 基本情報を、お聞きいたします

都道府県理学療法士会は、\_\_\_\_\_

(1) 新プロの料金設定を、お聞きいたします

徴収していない

徴収している

1科目当り \_\_\_\_\_ 円、1年間 \_\_\_\_\_ 円、一括払い \_\_\_\_\_ 円、回数券 \_\_\_\_\_ 円

(2) 上記収入の用途について、お聞きいたします

新プロ以外には使わない

新プロ以外の事業にも充当している

(3) 会員の新プロの入会后平均修了期間は、どのくらいですか

3年以内

3～4年

4～5年

5年以上

不明

(4) 1科目を、1年間に何回開催していますか（トピックスと症例検討は、除きます）

年1回

年2回

年3回

以上

数年に1回

(5) 10年以上の会員暦で新プロ未修了の方に必須教育プログラム(6単位)の広報を行っていますか

行っている

行っていない

問2. 開催困難な科目は、どれですか？

※ 困難順に下表（ ）内へ1～5位以内で、ご記入下さい

1年次

「理学療法士・作業療法士および関係法規

「地域におけるリハビリテーション」

「職業倫理・管理運営」

「協会組織と生涯学習システム」

「理学療法トピックスⅠ」

「症例検討Ⅰ」

2年次

「社会の中の理学療法」

「学問としての理学療法と研究方法論」

「生活環境支援」

「人間関係および労働衛生」

「理学療法トピックスⅡ」

「症例検討Ⅱ」

3年次

「世界の理学療法」

「生涯学習と理学療法の専門領域」

「理学療法士と保険制度」

「理学療法の教育方法論」

「理学療法トピックスⅢ」

「症例検討Ⅲ」

問3. これまでの新プロの科目以外に、どのような内容(テーマ)を望まれますか

例えば、「リスク管理」「救急措置(AEDを含む)講習会」、等

( ) ( ) ( )

( ) ( ) ( )

問4. 貴会では、科目読み替えを行っていますか(トピックスと症例検討以外での読み替え)

読み替えを行っている

→問5へ

全く行っていない

→問6へ

問5. 読み替えの範囲を、お聞きいたします(トピックスと症例検討以外での読み替え)

協会主催の学会や研究会・講習会は、読み替えを認めている

(読み替え科目を指定)

〃

(読み替え自由)

事前に都道府県理学療法士会内で開催する研修会等を申請した場合には読み替えを認めている

(読み替え科目を指定)

〃

(読み替え自由)

その他 ( )

問6. 会員の単位取得状況を把握されていますか

している

していない

問7. eラーニングを新プロに取り入れた場合、会として利用されますか

是非利用したい	利用すると思う	利用するかもしれない(わからない)	利用しない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※eラーニングとは、パソコンやインターネットを利用した教育のことをいいます。そのメリットとしては、①受講者の都合のいいときに受講できる、②集合教育のように移動の時間と費用を使わなくてすむ等が挙げられます。

問8. 専門理学療法士制度についてお聞きいたします

(1) 専門理学療法士制度を再構築しているところですが、その経緯については協会ニュースやホームページで「変わります! 専門理学療法士制度」でご案内しています。現在は第6報まで掲載していますが、その内容については都道府県理学療法士会担当者の理解度を教えてください?

理解している	部分的には理解している	変わることは知っているが内容はわからない	変わること自体知らなかった
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



### Ⅲ. 理学療法士講習会に関するアンケート調査（養成校）

#### 1. 調査目的

本調査は会員が受講しやすい理学療法士講習会の制度を検討するために、理学療法士養成校の実態と研修協力体制について意見を集約し、今後の研修システムを考えるための基礎資料を得ることを目的とする。

#### 2. 調査期間

平成 21 年 11 月 1 日～11 月 30 日

#### 3. 調査方法

理学療法士養成校を対象とした自記式アンケート法で調査を実施した。調査項目は協会への入会案内方法、養成校主催の研修会実施状況、理学療法士講習会の協力体制に関する調査項目である。（アンケート用紙は P49～P51）

#### 4. 調査対象

246 校にアンケートを配布し、回答の得られた 175 校を対象とした。（回収率 71.1%）

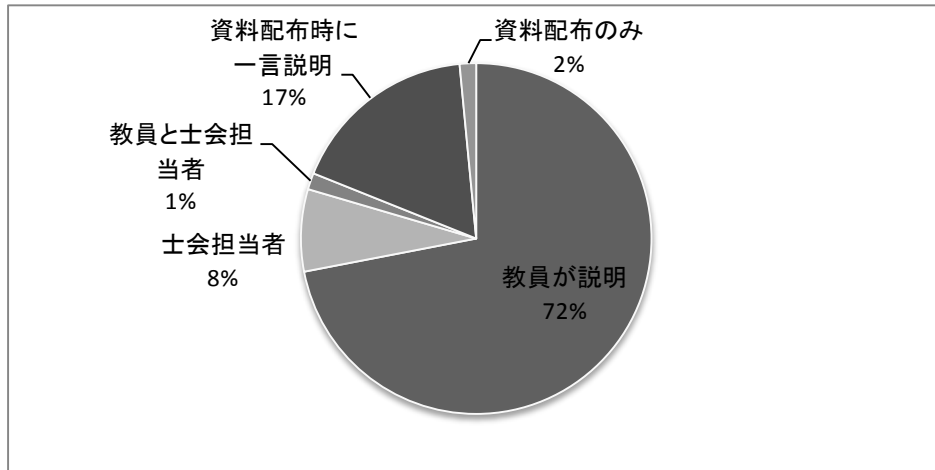
#### 5. アンケート調査結果の概要

##### 1) 調査対象の概要（都道府県別養成校：回答数 175 校）

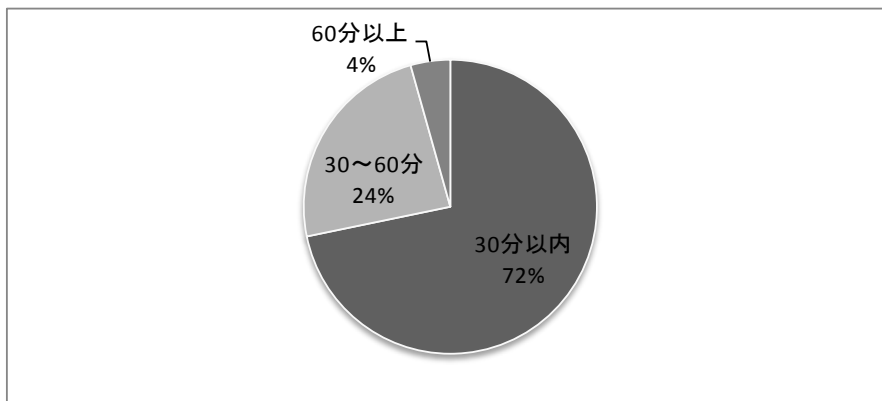
都道府県	回答数	都道府県	回答数
北海道	7	京都	2
青森	2	滋賀	1
秋田	1	大阪	17
岩手	1	奈良	4
山形	1	和歌山	1
宮城	2	兵庫	9
福島	1	岡山	6
茨城	2	広島	4
栃木	1	山口	2
群馬	3	島根	2
埼玉	6	愛媛	2
千葉	8	香川	2
東京	12	高知	3
神奈川	3	徳島	1
山梨	1	福岡	12
長野	3	佐賀	1
新潟	3	長崎	3
富山	1	熊本	3
石川	3	大分	2
福井	1	宮崎	2
静岡	8	鹿児島	5
岐阜	4	沖縄	2
愛知	12		
三重	3		

## 2) 日本理学療法士協会への入会説明と資料配付について (n=132)

養成校における協会への入会説明と入会資料配付について、教員が説明している養成校が 95、都道府県理学療法士会担当者が説明している養成校は 10、理学療法士会担当者と教員が説明しているは 2、資料配付時に一言程度説明しているは 23、資料配付のみは 2 であった。教員が入会説明しているケースが大部分で理学療法士会担当者が関わっていることは少ない状況であった。

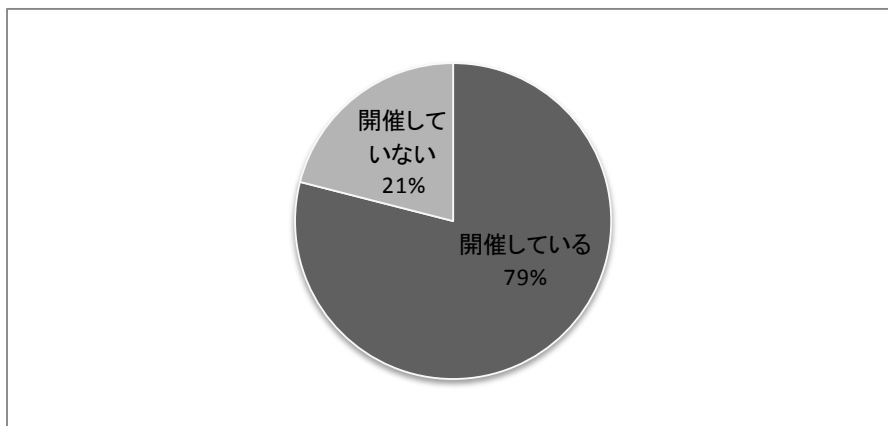


教員が説明する時間については、30分以内が 66、30～60分は 22、60分以上は 4 であった。



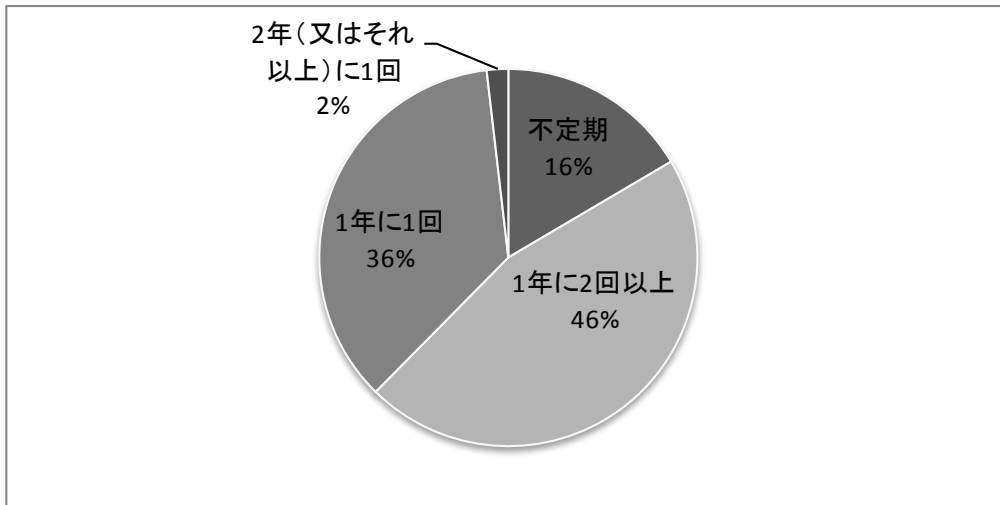
## 3) 卒業生を対象とした定期的な研修会の実施について (n=138)

卒業生等を対象とした研修会・学会等の開催（同窓会組織が開催しているものも含む）について、開催している養成校が 109、開催していない養成校が 29 であった。約 8 割の養成校が定期的な研修会を実施していた。



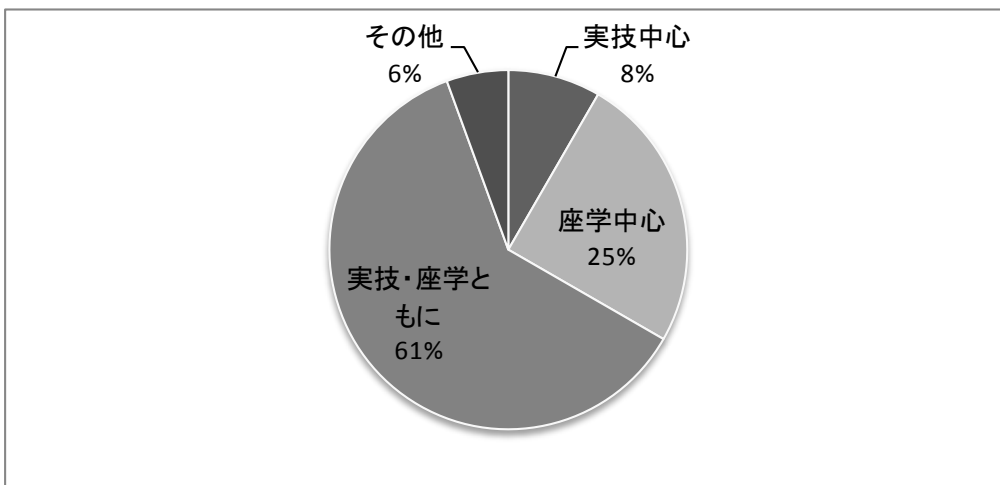
#### 4) 研修会の開催頻度について (n=109)

養成校が開催している研修会の開催頻度について、不定期が 18、1 年に 2 回以上が 50、1 年に 1 回が 39、2 年に 1 回以上が 2 であった。約半数の養成校が 1 年に 2 回以上の研修会を開催していた。



#### 5) 研修内容 (実技・座学) について (n=108)

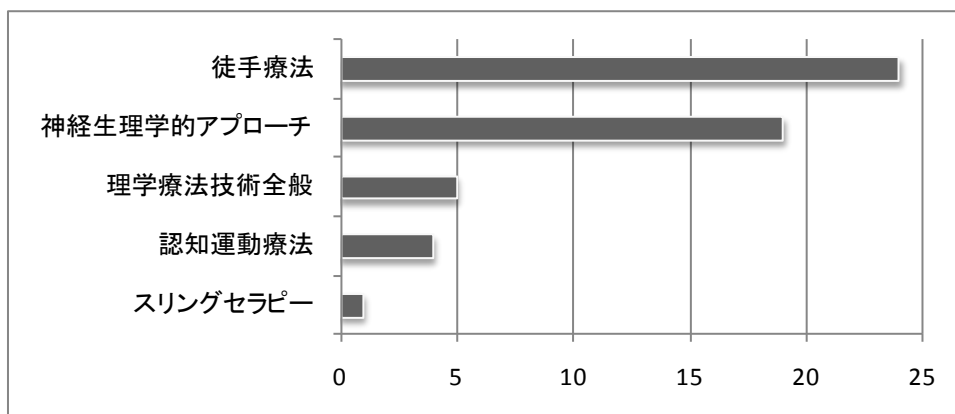
養成校が開催している研修会の研修内容について、実技中心の内容で実施している養成校は 9、座学中心は 27、実技・座学ともに開催している養成校は 66、その他は 6 であった。



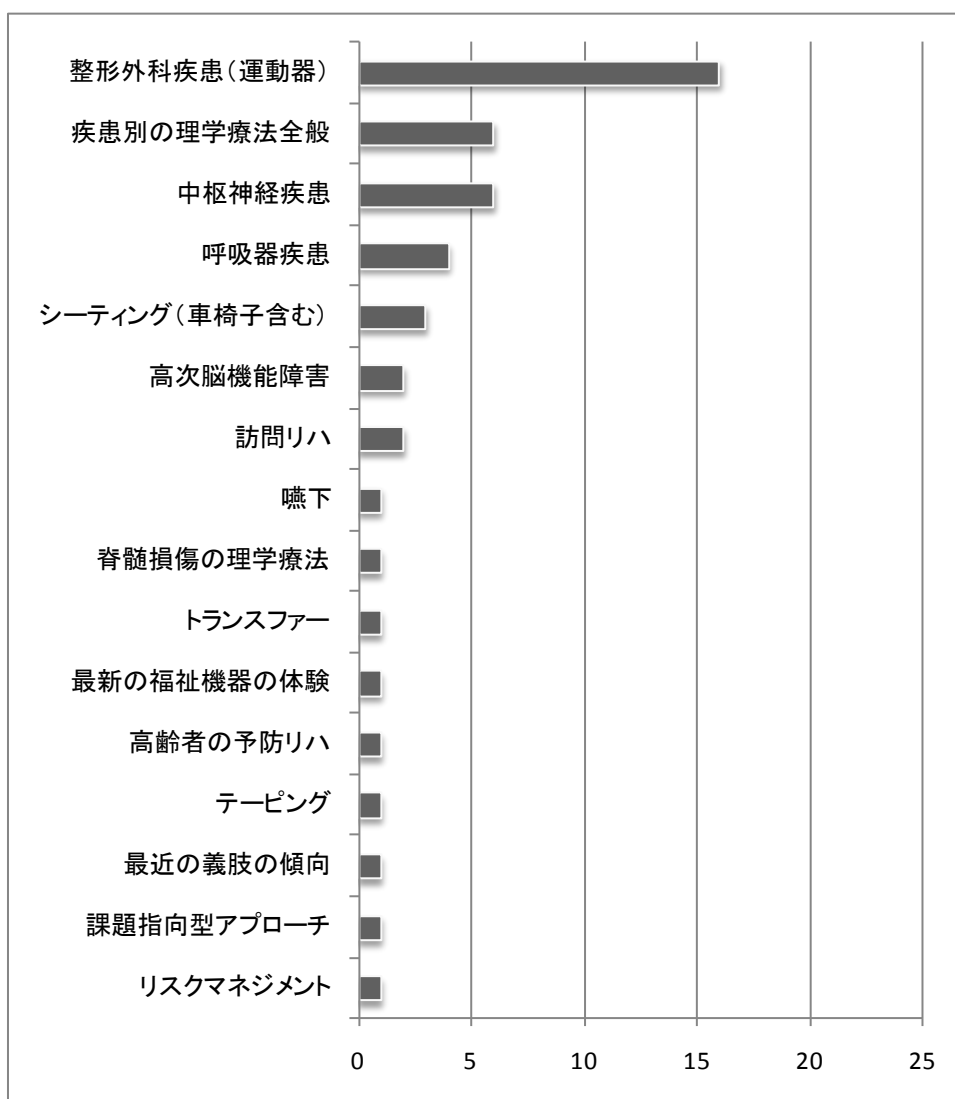
#### 6) 研修会の具体的内容について

養成校が開催している研修会のテーマについて、技術系・臨床系・基礎系に分類し下表に示した。また、研修会の形式についても下表に示した。

(1) 技術系テーマ



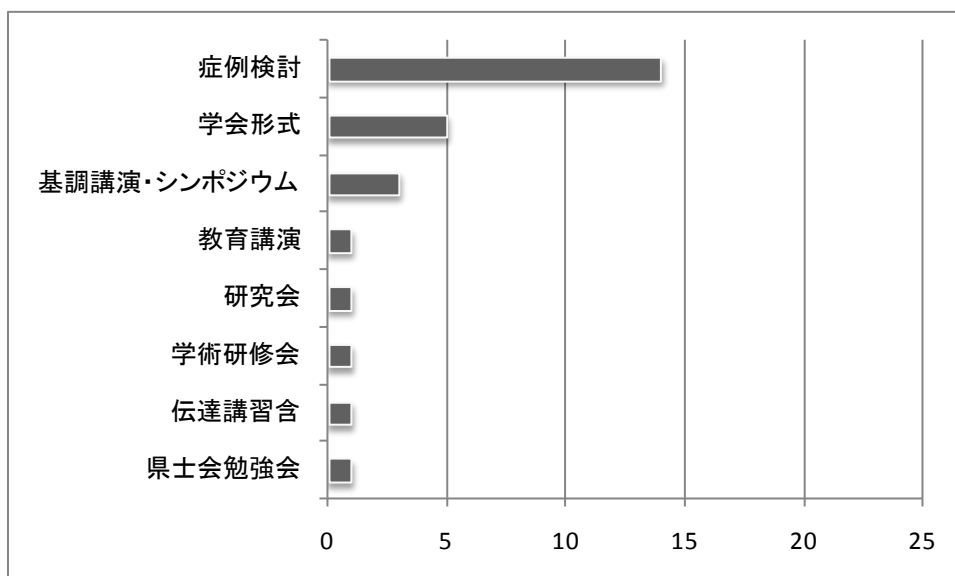
(2) 臨床系テーマ



(3) 基礎系テーマ

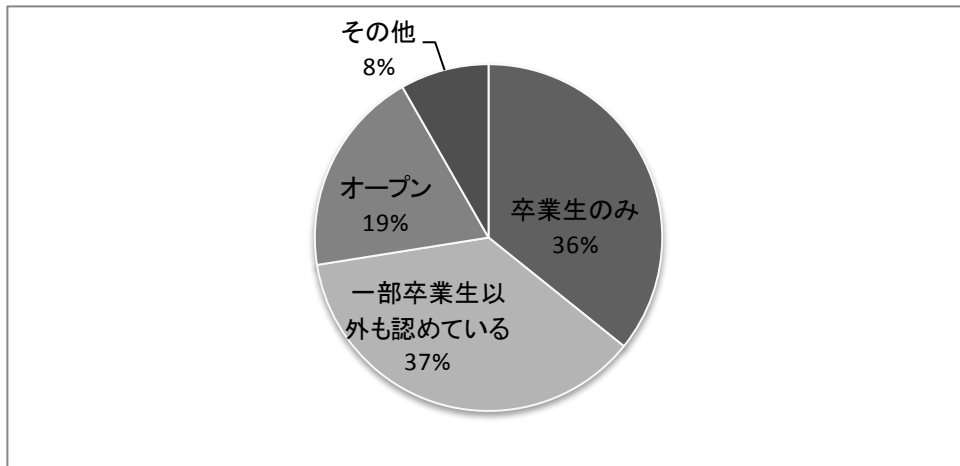


(4) 研修会の形式



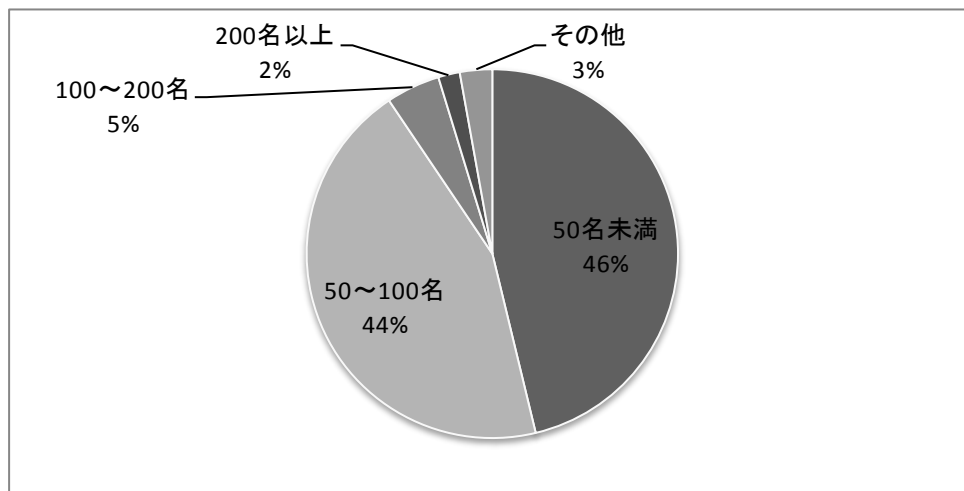
### 7) 研修会の参加者について (n=109)

養成校が開催している研修会の参加者について、卒業生のみを対象としている養成校は 39、一部卒業生以外も認めているは 40、オープンで参加を認めているは 21、その他は 9 であった。



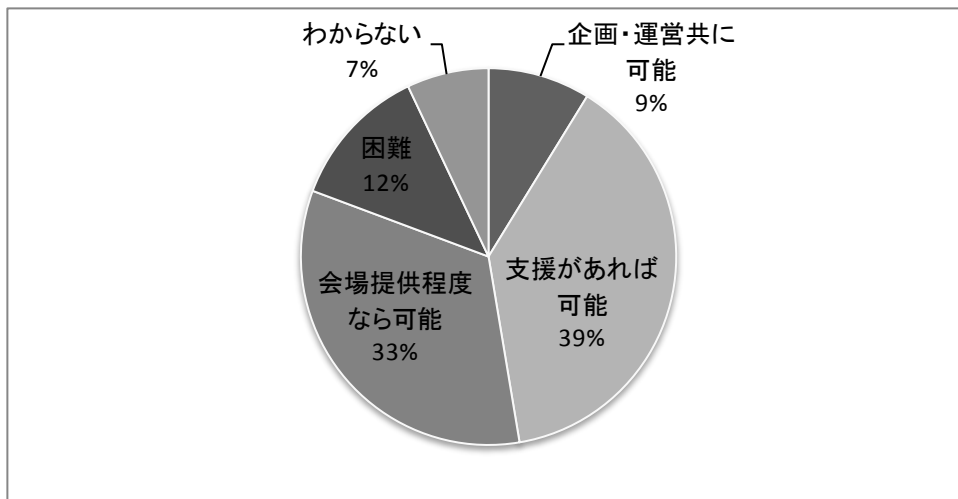
### 8) 研修会参加者の人数について (n=106)

養成校が開催している研修会の参加人数について、50 名未満が 49、50～100 名が 47、100～200 名が 5、200 名以上が 2、その他が 3 であった。



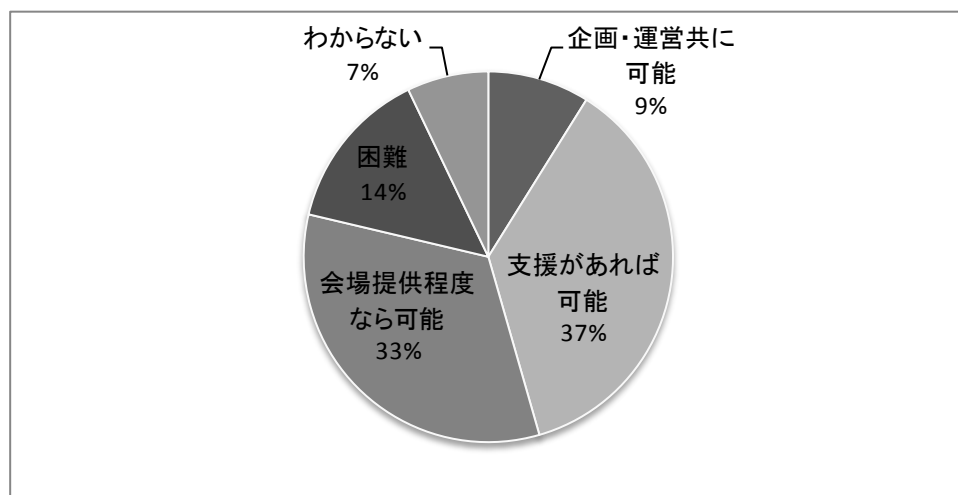
### 9) 理学療法士講習会基本編（理論）の養成校開催の可能性について（n=171）

理学療法士講習会基本編（理論）を養成校に依頼した場合の開催の可能性について、企画（講師含む）・運営ともに（単独で）可能である 15、協会または都道府県理学療法士会の支援があれば開催は可能である 66、会場の提供程度なら開催協力は可能である 57、開催は困難である 21、わからない 12 であった。基本編（理論）の開催については、単独で、もしくは支援があれば可能と回答した養成校が約半数であった。会場提供も含めると、約 8 割が基本編（理論）の開催に協力的であった。



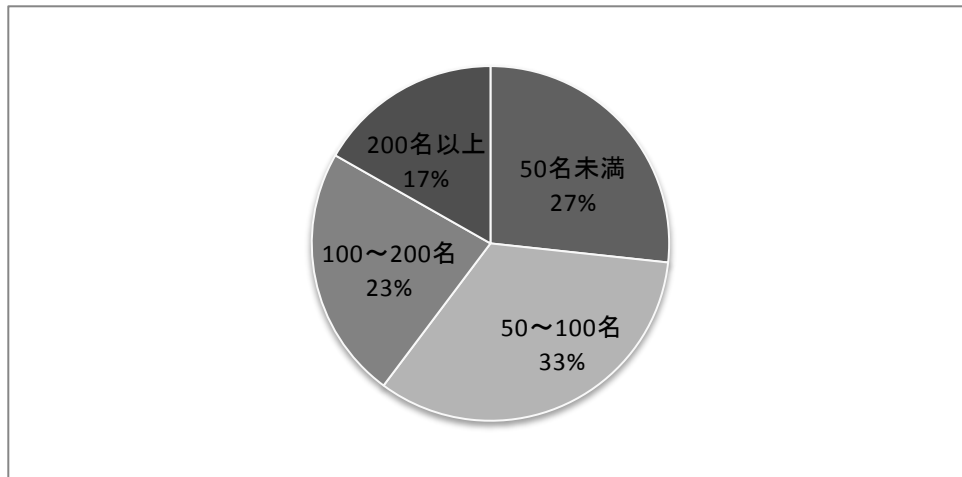
### 10) 理学療法士講習会基本編（技術）の養成校開催の可能性について（n=171）

理学療法士講習会基本編（技術）を養成校に依頼した場合の開催可能性について、企画（講師含む）・運営ともに（単独で）可能である 15、協会または理学療法士会の支援があれば開催は可能である 62、会場の提供程度なら開催協力は可能である 56、開催は困難である 24、わからない 12 であった。基本編（技術）の開催についても、ほぼ基本編（理論）と同様に開催に協力的な結果であった。会場や設備の都合で困難と回答した養成校が数校あった。



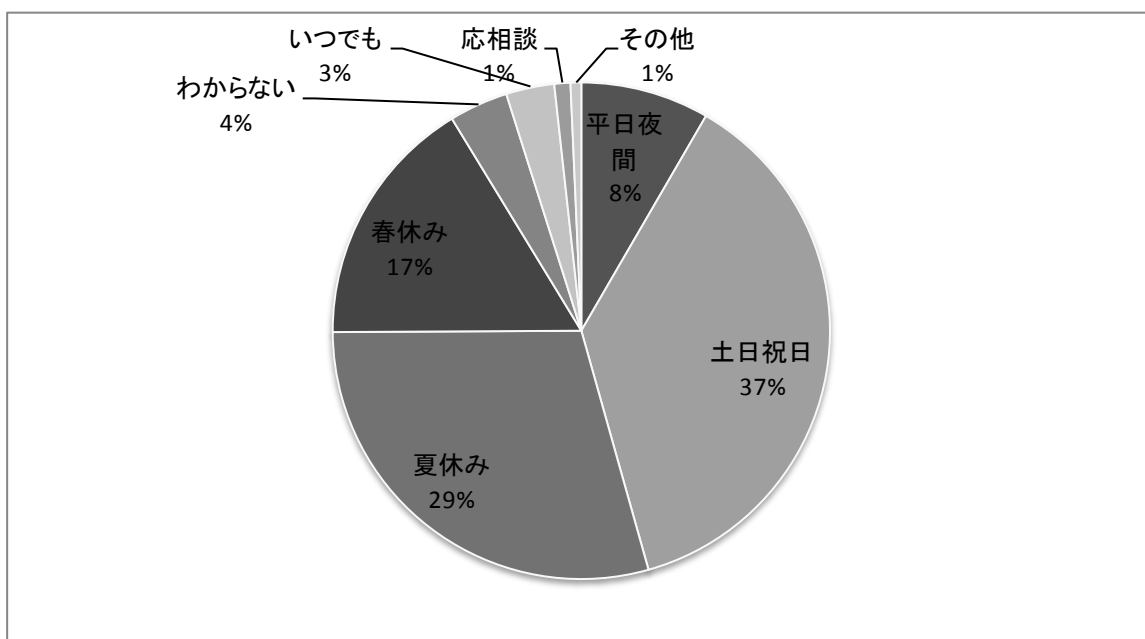
### 1 1) 利用可能な会場の収容人数と利用料金について (n=161)

養成校で利用可能な会場の収容人数について、50名未満が43、50～100名は54、100～200名は37、200名以上は27であった。利用料金については、会場の広さによって若干差はあるものの、無料提供が可能な養成校が34、1万円未満が17、1～2万円が25であり、リーズナブルな利用料金で利用可能な会場が多く見られた。

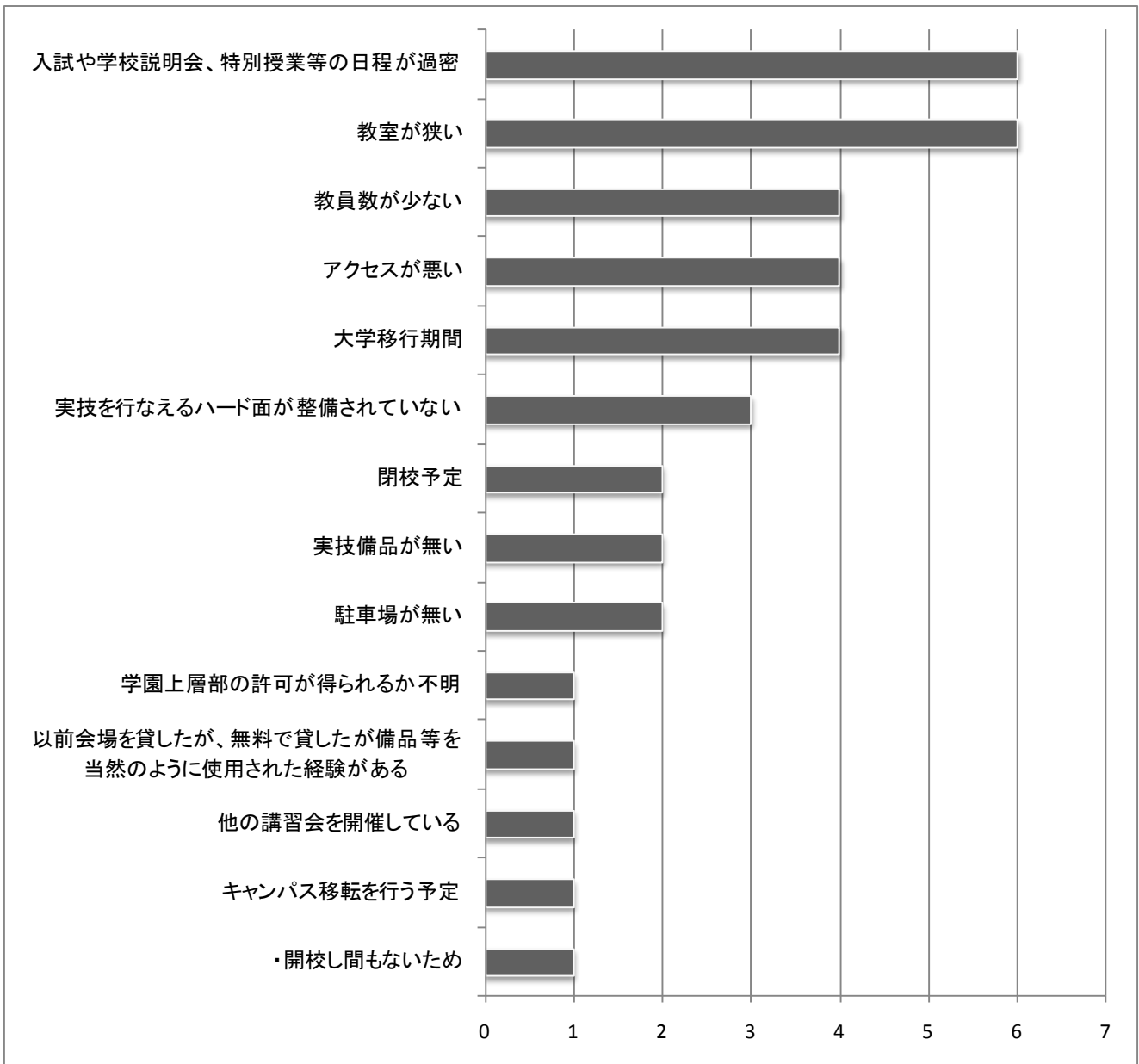


### 1 2) 講習会開催の開催時期について

理学療法士講習会を養成校で開催した場合、都合の良い開催時期について、平日夜間が24、土日祝日が107、夏休みが84、春休みが47、わからないが11、いつでもが9、応相談が3、その他が2であった。養成校では土日祝日と夏・春休みの期間が開催しやすい時期として多かった。



### 1 3) 養成校での理学療法士講習会が開催困難な理由について



### 1 4) その他、理学療法士講習会の養成校開催に対する意見について

自由記載例を以下に記す。( )内は同種意見数

- ・養成校も増し、身近な資源の1つであると考えられる。何らかの形で貢献したい。(12)
- ・主旨には賛同。(4)
- ・養成校自体も良い勉強になると思う。
- ・学生にも聴講させたい、特別講義としても可能であれば繋がりも出来るので、大学としてもメリットは大きい。
- ・職員に負担がかかり過ぎないようにご配慮願いたい。(3)
- ・前向きに検討していきたい。
- ・以前から卒業生向けの研修プログラムの構想はあるが実現はしていない。協力の講習会とリンクして行なえるのであれば良い方法と思う。

- ・各養成校には卒後研修をある程度の範囲で義務化したらいかがでしょうか？
- ・教員が講師・企画者となることは認めている。
- ・私学の厳しい経済状況、運営状況があり、一括して養成校だからできるとは限らない。
- ・地域にむけた講座や研究会の研修会も開催しているため、更に新たな講習会等の開催は時間的に厳しい。
- ・都道府県理学療法士会の研修会に協力しているが、これ以上の開催については管理が困難。
- ・協力の実技研修にはなかなか新人が行けないため、本校は独自の卒後教育プログラムを行なっている。
- ・現在卒業教育センターの設立に向けて準備中。
- ・協力した養成校にPT協会から何らかのメリットはあるのか？
- ・受講料を抑えるには養成校開催は有効だが、スタッフ費用や何らかのアドバンテージとなるものはあるのか？ (2)
- ・会場を養成校に依頼するのは卒業生を出している以上、半分は義務とは思いますが、負担を分担していただくことが望ましい。
- ・基礎編である以上、協会から内容をマニュアル化し最低限習得することを明確にして欲しい。
- ・卒後教育にあたっては臨床で働くPTの講義や実技が望ましいのでは？
- ・今回の講習会内容とその対象を規定したことに関しどのような検討がなされたのでしょうか？個人的にはもう少し細分化する必要性を感じる。
- ・協会で都道府県理学療法士会との連絡、連携を充分にとって下さい。(2)
- ・会員の利便性は養成校開催で非常に良くなると思う。が、学生数も増加し、卒後教育にどこまで力を入れられるかは他校の現状を見ると疑問。学校側のメリットとあるが、もう少し具体的なことを示していただきたい。
- ・基本的な知識・技術を反復して研修できるシステムは必要。技術に関してはどのような形式で実施するかは難しい問題。
- ・県・地域による格差を少なくするために講師の統一もしくは規定を作成して欲しい。(資料も含めて)
- ・備品使用に際し、破損・要修理の場合の責任付与は？
- ・参加者への施設利用心得についても協会側から働きかけて欲しい
- ・予算関係の協会とのやり取りに手間がかかりそうで心配
- ・今後専門領域で行う認定試験の会場としては日程さえ問題なければ提供可能
- ・この研修が専門・認定PTのポイントになるようシステムを構築しないと参加者のインセンティブにならないと思う。
- ・専門領域との区別を明確にして下さい。
- ・最近各地で運動療法手技の講習会が開催されているが、臨床的効果や医学的根拠が無いままに自己満足で終わってしまっている感が強い。
- ・当校の学校パンフレットに名前(理学療法士講習会)を出すことは可能でしょうか？例えば講座名、講師名、内容など。
- ・近年、研修会・学会等における写真撮影が諸事情により厳しく規制されることが多くなっている一方、HP上の広報活動の一環として多く活用されているのも事実かと思えます。研修会等の開催において、上記活用のための写真撮影などについて、どのような規制がありますでしょうか？
- ・今年度初めて卒業生が出る予定です。協会入会資料があるのでしょうか？
- ・19年度の入会資料の配布を当方の手違いで配布できなかった。

養成校名： \_\_\_\_\_

4年制大学     3年制短期大学     4年制専門学校     3年制専門学校

理学療法学科 入学定員： \_\_\_\_\_名（平成21年度）

問1 貴校では卒業生に日本理学療法士協会への入会説明と資料配付（入会申し込み書・新人教育プログラム教本）をどのように行っていますか？

時間を設定して教員が説明を行っている（ \_\_\_\_\_ 月頃に実施）（約 \_\_\_\_\_ 分実施）

都道府県理学療法士会担当者が説明に来る（ \_\_\_\_\_ 月頃に実施）（約 \_\_\_\_\_ 分実施）

資料配付時に一言程度説明する

資料の配付のみ

問2 貴校では卒業生等を対象とした定期的な研修会・研究会・学会等を開催していますか？

（同窓会組織が開催している研修会等を含む）

開催していない

開催している

問3 どのくらいの頻度で開催していますか？

不定期

1年に2回以上

1年に1回

2年（又はそれ以上）に1回

問4 研修内容（実技・座学）について教えてください。

実技を中心とした研修会を開催している

具体的内容（複数回答可）：例 PNFなど \_\_\_\_\_

座学を中心とした研修会を開催している

具体的内容（複数回答可）：例 介護保険情報など \_\_\_\_\_

実技・座学ともに開催している

具体的内容（複数回答可）： \_\_\_\_\_

その他（ \_\_\_\_\_ ）

問5 参加者について教えてください。

- 卒業生のみを対象としている
- 一部卒業生以外も認めている
- オープンで参加を募っている
- その他 ( )

問6 参加者のおおよその人数を教えてください。

- 50名未満
- 50～100名
- 100～200名
- 200名以上

現在、協会では理学療法士講習会基本編（理論）と（技術）の開催頻度を増やし、会員が受講しやすい体制を検討しているところです。そこで、以下の問にお答えください。

※ 理学療法士講習会（理論）は座学を中心とした研修会であり 100名規模。一方の（技術）は 50名以下の参加者を対象とした研修会です。また、講習会費用（会場費・講師料）については協会の規程に基づき全額を支出します。

問7 理学療法士講習会基本編（理論）の開催を貴校に依頼した場合、講習会開催は可能でしょうか？

- 企画（講師含む）・運営ともに（単独で）可能である
- 協会または都道府県理学療法士会の支援\*があれば開催は可能である
- 会場の提供程度なら開催協力は可能である
- 開催は困難である →問 11 へ
- わからない

\*支援とは、受講生募集広報、受講生受付事務、当日運営補助などを想定しています。

問8 理学療法士講習会基本編（技術）の開催を貴校に依頼した場合、講習会開催は可能でしょうか？

- 企画（講師含む）・運営ともに（単独で）可能である
- 協会または都道府県理学療法士会の支援\*があれば開催は可能である
- 会場の提供程度なら開催協力は可能である
- 開催は困難である →問 11 へ
- わからない



[報告書編集]

(社) 日本理学療法士協会

研修システム等検討委員会

委員長 梶村 政司 (理事)

吉井 智晴 (理事)

吉元 洋一

井口 茂

谷口 千明

山口 雅子

加藤めぐみ

白石 浩 (編集責任者)